

ジェンダーギャップの解消を目指して

～ SDGs (持続可能な開発目標) に関する探究の記録～

《 2023 年度版 》



<付録>

G G K K

(ジェンダーギャップを考えるカルタ)

2023 年度後期 帝塚山大学法学部専門基礎演習 B 成果物

作成：2 年生 12 名&指導教員 末吉 洋文

#sustainabledevelopmentgoals #genderequality #rightsofwomen
#unconsciousbias #MeToo#sustainabledevelopmentgoals
#genderequality #rightsofwomen #unconsciousbias #MeToo#s
ustainabledevelopmentgoals #genderequality #rightsofwomen
#unconsciousbias #MeToo#sustainabledevelopmentgoals
#genderequality #rightsofwomen #unconsciousbias #MeToo#s
ustainabledevelopmentgoals #genderequality #rightsofwomen

目次

2023年度版 GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）について	1
ゼミでの研究活動について	2
GGKKの取材やその他の活動について	4
奈良県こども・女性局女性活躍推進課による 特別講演「奈良県の男女共同参画」	10
<付録> GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）	12
ジェンダーとは何か（指導の手引き）	36
ジェンダーギャップ指数（GCI：Gender Gap Index）とは何か	37
ガラスの天井指数（GCI：Glass Ceiling Index）とは何か	38
GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）一覧（2020年度版）	39
GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）一覧（2021年度版）	40
GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）一覧（2022年度版）	41
GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）一覧（2023年度版）	42
参考文献リスト	43
年表	55

国際女性デーは3月8日ですが、イタリアではこの日を「FESTA DELLA DONNA（フェスタデラドンナ）＝女性の日」としています。男性がお母さんや妻、同僚の方に日頃の感謝を伝えるために、ミモザを贈る風習があります。

1922年にイタリアで初めて国際女性デーが祝われ、1944年にイタリア女性労働組合が発足しました。ミモザの開花時期が2~3月であることから、国際女性デーのシンボルになったと言われています。



2023年度版 GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）について

ちょうど3年前の2021年3月8日「国際女性デー」に初めてGGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）を世の中に向けて発信しましたが、幸い多くの反響をいただき、新聞やテレビ、ラジオなどにも取り上げて頂きました。

今年度も、前年度同様、後期の「専門基礎演習B」（2年生）のゼミでは、2030年までに達成すべき17のSDGs（持続可能な開発目標）のひとつである「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに研究を深め、発表を行ってきました。

内閣府男女共同参画局の定義によれば、ジェンダー（gender）とは「社会的・文化的に形成された性別」のことであり、人間には生まれつきの生物学的性別がある一方で、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別をといてさされています。しかし、日本のみならず世界においては、ジェンダーに基づいた差別の事例が多くみられ、問題になることもしばしばあります。近年では、男女平等を実現する上で、ジェンダーギャップ指数が世界経済フォーラム（World Economic Forum）によって発表され、毎年注目されていますが、日本は2019年の同指数の順位が110位、2020年に121位（153カ国中）、2021年に120位、2022年に116位、そして2023年には125位となりました。順位は近年にない程度に落下、数値も悪化してしまいました。

実際にGGKKを世に送り込んでからのこの数年の間、ジェンダーの問題について新たに多くの事が問題になり、ニュースとしても報じられました。こうした社会の動向を踏まえての第4弾として2023年度版のGGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）を発表したいと思います。なお、「り」「る」「れ」の札については、協定校である奈良育英高等学校の生徒さん達に考えて頂きました。

カルタは、私たちがゼミでの研究発表などを通して学んだ様々なジェンダーに関連する問題が集約されています。その最大の特徴は遊びながらジェンダーの問題について知り、考え、一緒に遊ぶ仲間と議論できる、という点です。

実際に学外でワークショップの依頼を頂くことがあり、出張講義などを行いましたが、改めてジェンダーギャップの解消は老若男女の誰にとっても共通の課題であると感じた次第です。

「GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）」の普及によってジェンダーの問題が少しでも解消されること、そして日本のジェンダーギャップ指数の順位が来年は少しでも上がることを私たちは願っています。

2024年3月8日 国際女性デーの日に

帝塚山大学法学部 専門基礎演習B（国際法・平和学ゼミ）指導教員 末吉 洋文

2020年度版と2021年度版、そして2022年度版の「ジェンダーギャップを考えるカルタ」が無料で閲覧&ダウンロードできる帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミのHPはこちらからどうぞ⇒



ゼミでの研究活動について

2023年10月

女子差別撤廃条約採択の経緯とその内容について

末吉 洋文（アドバイザー（指導教員））

ジェンダーギャップの解消と男女共同参画、あるいは女性活躍の大部分は女性差別の問題であるという認識のもと、担当している「国際人権法」の授業（3年生以上対象）で使用しているレジュメ配付し、女子差別撤廃条約の経緯とその内容について説明を行った。

条約に基づき、女子差別撤廃委員会と日本政府との間に行われる建設的対話についても説明を行った。建設的対話とは、条約18条に基づき、締約国政府が条約が効力を生ずる時から1年以内、その後は少なくとも4年ごと、更には委員会が要請するときに政府報告書を条約運営機関である女子差別撤廃委員会に提出し、同委員会が21条に基づき、締約国から得た報告及び情報の検討に基づく提案及び一般的な性格を有する勧告を行うことができるという制度である。これらの政府報告書と委員会からの勧告については、外務省HPにおいて閲覧できることも紹介した。なお、女性の権利に関しては、国連人権理事会における普遍的定期的審査においても取り扱われるテーマであるが、割愛した。

また、男女共同参画に関しては男女雇用機会均等法や女性活躍推進法などを説明するとともに、2030年までに達成すべき17の目標としてのSDGsにおいても「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」として盛り込まれており、ジェンダーギャップを解消するための契機にあることを説明した。

ゼミ学生にとっては国内の法律や施策がこうした多数国間条約や国連を中心とした国際人権法制度のもとに作られていることを認識し、国際法が国内法に及ぼす影響について考える機会となった。

建設的対話とは何か



ゼミにおける学生の報告テーマ一覧

2023年度後期のゼミ（専門基礎演習B）を通じてジェンダー平等を実現するために学生が選択したテーマは以下のとおりである。

10/18	ジェンダー問題と防災	Y・S
10/25	女性管理職の現状	T・Y
10/25	世界と日本のジェンダー問題	N・T
11/8	スポーツとジェンダー問題	H・T
11/8	女性差別と日本の歴史	Y・K
11/15	ジェンダー問題と学校	T・T
11/22	ジェンダー教育（LGBT）とは	A・R
11/22	ジェンダー平等への各国の取り組みと現状	T・T
11/29	ジェンダーと法整備	O・D
12/13	ファッションから考えるジェンダー	K・R
12/20	兵庫県豊岡市のジェンダー	K・Y
12/20	スポーツ界におけるジェンダー問題	S・T

※学生の氏名はイニシャルにしています



GGKK の取材やその他の活動について (2022 年度以降)

- ① 「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を原案として徳島県教職員組合が「みんなで学ぼうジェンダーフリーかるた」を制作

ジェンダー問題 かるたで学ぼう 県教組など制作 徳島新聞 2022 年 5 月 7 日



- ② 奈良育英高校における出張授業 「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を実施。
2022 年 6 月 18 日
- ③ 奈良県男女共同参画担当職員研修 ジェンダーギャップを考えるカルタを使用
2022 年 8 月 23 日
- ④ ジェンダーギャップを考えるカルタ キャンパス探訪 帝塚山大学法学部末
吉ゼミ 性差考えるカルタ考案 男子学生主体で取り組み 日本経済新聞 2022 年 10
月 6 日

⑤ コミュニティアクション チャレンジ 100 アワードのチャレンジ賞受賞、最初の2020年度版を制作したゼミ生2名とともに国際ガールズメッセ@東京で活動報告
2022年10月16日



帝塚山大学公式HP 2022年11月2日(水) お知らせ

【法学部】秋篠宮佳子内親王殿下の前で活動を報告 末吉ゼミの「ジェンダーギャップを考えるカルタ」がガールスカウトのアワードで受賞



⑥ 徳島県におけるジェンダー問題の講演・ワークショップの実施「中高生人よる人権交流事業」@徳島県阿南市の阿南市商工業振興センター 2022年11月18日・19日



⑦ 大阪信愛学院高等学校における出張授業「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を実施。 2023年1月16日

⑧ アルザにいがた SDGs 「ジェンダー平等」展 2023年3月4日、5日
 会場:イオンモール新潟南店1階 マリンコート(新潟市江南区下早通柳田1丁目1番1号)



展示においては、『「わかる〜」と思うカルタにシールを貼って投票』という方式が取られ、ゼミの学生が制作した札が4枚展示されました。

⑨奈良育英高等学校におけるワールドカフェ

最初は中学生が「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を使って遊び、途中からは高校生が参加。

一人ずつ気になるカルタ札を取ったあとは、グループに分かれた上で、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）の札「ゆがみを ただせ アンコンシャス・バイアス」を取った生徒さんが同概念についてカルタ札の裏面を読み上げて説明しました。

次に株式会社ポーラ作成の冊子「10代のためのジェンダーの授業」第2弾の3頁にある「無意識の思い込み」を知ろう から、以下の内容を使って活発な意見交換や議論が行われた。

- ・プログラマー募集ポスターに違和感を感じないかどうか
- ・運動会を終えてからの先生からの言葉に違和感を感じないかどうか
- ・車で父と子が事故に遭ったが、病院での手術の執刀医が「私の息子だ」とはどういう意味か



⑩引越し / 暮らしの情報 Livika INTERVIEW SDGs 大学プロジェクト × Tezukayama Univ. -Part 1-
<https://livika.jp/31340/>

「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を制作した当初のゼミ活動やその後の反響や指導教員が考えているジェンダー問題の解決方法など、様々な内容が書かれています。ご一読ください。



SDGs アクションプラン 2023 (PDF ファイル)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2023.pdf

下記の QR コードからご覧ください。



なお、2023年3月にSDGs推進本部がまとめた「SDGsアクションプラン2023～SDGs達成に向け、未来を切り拓く～」では、「ジェンダー」への言及が行われている。

1 あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現

▶あらゆる人々がその個性を発揮して活躍できる社会をつくるため、ダイバーシティ・バリアフリーの推進に引き続き取り組む。テレワークなどの働き方改革を通じてディーセント・ワークの実現を促進し、ワーク・ライフ・バランスの実現等を通じ、個人が輝き、誰もがどこでも豊かさを実現できる社会を目指す。

▶「第5次男女共同参画基本計画」や「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022」（女性版骨太の方針2022）等に基づき、男女間賃金格差の是正や女性デジタル人材の育成、女性の登用目標達成、「生理の貧困」への支援、女性に対する暴力の根絶など、女性活躍・男女共同参画の取組を推進する。あわせて2023年6月24、25日に我が国で初めてとなる「G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」を栃木県日光市で開催し、国際社会への発信及び取組の一層の進展の契機とする。

奈良県こども・女性局女性活躍推進課による

特別講演「ジェンダー平等の観点からこれからのキャリアを考える」

日時：2024年1月24日（水）3時限目（13：10～14：40）

場所：東生駒キャンパス1号1101教室

演題：「ジェンダー平等の観点からこれからのキャリアを考える」※50-60分の講義、30分は「奈良県こどもまんなか未来戦略」の意見聴取を実施

講師：奈良県こども・女性局女性活躍推進課 石井一史様

オープンゼミ形式として開催された講演会にはゼミ生12名の参加があった。開催の目的は、ゼミで研究を進めてきたジェンダーの問題を、大学における机上の学問としてだけではなく公務員（行政職）という実務的観点からの学びを取り入れることで、ゼミでの研究との接点を持たせ、より深く理解するためであった。

講演は、まず石井様からの自己紹介とこども・女性局の所管施策の説明から始まった。女性活躍推進課には少子化対策、地域の子育て支援、女性の活躍推進、男女共同参画の推進、女性の就労支援、女性への暴力防止啓発、そして性暴力被害者支援があり、出先機関として女性センター（男女共同参画の拠点）が挙げられている。

若い世代が結婚・子育ての将来展望を描けないという奈良県だけではなく国としての大きな課題について。未婚者のうち「いずれ結婚するつもり」と答えた者の割合は、長らくは横ばいであったが、直近の調査において、大きく低下している点、そして未婚者の平均希望子ども数は、減少傾向が続いており、直近の調査では、特に女性で大きく減少していることが示された。

次にこども未来戦略「加速化プラン3.6兆円」の施策詳細が紹介され、若い世代の所得向上に向けた取組や全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充が取り組まれていることに関する説明があった。

男女の地位の平等感に関するスライドも用意されており、学校教育の場では68.1%だが、政治の場においては9.6%となっているとのこと。これはジェンダーギャップ指数からしても、政治および経済の数値（順位）が悪いことを反映した内容である。指数で順位を上げようと思えば、政治分野における女性活躍について日本はもっと真剣に考えなければならない。

次に、奈良県の女性を取り巻く現状に関する説明があり、「夫が外で働き、妻が家を守る」との意識を持つ県民の割合（2015年）50.4%（第1位）、女性の家事従事時間（2021年）238分（第1位）、女性の就業率（2020年）70.6%（第47位）、0～5歳人口比の保育所の数（2020年）（人口10万人あたり）404.8（第47位）、そして通勤時間の長さ（2018年）男性31.3%（第4位）、女性13.7%（第4位）※通勤時間が60分以上の人の割合、といったデータも紹介された。奈良県にとっては厳しい現実である。

また、「本県の結婚や子育てをめぐる現状」として20代における人口流出が多く、県内大学入学率2020年25.4%（全国44位）というデータが挙げられたうえで説明があったが、今年度のカルタ札にも入れたように、ジェンダーギャップが大きければ大きいほど女性は地元を離れ、ジェンダーギャップの無さを都会に求める。これはジェンダーギャップ対策に力を入れて

いる兵庫県豊岡市では、10代で豊岡市から転出した人と、20代で転入した人の割合を比べ、独自の指標として「若者回復率」が測られ、その結果に愕然としたという話もある。

今後は女性が住みやすさや生きやすさを求めてジェンダーギャップの小さい場所で人生を送るケースが増えることも予想される。

また、奈良県の現状については、

- ・奈良県の女性の就業率（20歳～64歳）は70.6%（令和2年）で、全国最下位（全国74.9%）

- ・30代・40代を中心に働きたい（が働けていない）女性が多い

- ・希望した人が就業している割合（20歳～64歳）は96.0%（令和4年）で、全国46位

⇒労働力が温存されている

といったデータも紹介された。

いわゆる昭和の家庭においては、夫婦役割分業モデルというものがあり、夫は正社員として働き、妻は専業主婦という家庭が多かったが、それはこれからの時代におけるリスクでもあるという。つまり、「サラリーマンの夫+専業主婦の妻」という夫婦役割分業モデルは、高度経済成長期やバブル期には有効であったが、成熟社会・少子高齢化社会の現在においてはリスクともなり得るのである。

理由としては以下のとおり。第一に、経済は低成長、実質所得は減少しているという現実。第二に、専業主婦の場合、夫に病気や事故、リストラ・倒産などの一大事があったり、やむを得ず離婚した際に、収入が極端に減少する。第三に、経済的な理由で離婚したくてもできない女性や、家事・育児の負担を押しつけられる女性もいる、という点である。

何せ、ジェンダーギャップの解消という意味において、奈良県は地理的な要因なども手伝ってあまり良い方向には進んでいないようにも思える。

授業時間の後半は、ゼミ生に対して奈良県が策定中の「こどもまんなか未来戦略」に関する意見聴取が行われた。

講演は3年前から実施して頂いているが、たいへん充実したものとなった。最期になりましたが、ご講演をご快諾して頂いた奈良県女性活躍推進課の石井様に厚く御礼申し上げます。

（文責：末吉 洋文）

付録 ジェンダーギャップを考えるカルタ

Gender **G**ap wo **K**angaeru **K**aruta



【遊び方】

- ・15～38ページ（本冊子のページではなく、PDFが表示するページ）を両面印刷（長辺を綴じると指定）の上、切れ分ければカルタの完成です。可能ならば少し硬い紙が良いでしょう。
- ・カルタを読む人は冊子42ページの一覧から選んで読み上げてください。カルタをもう1セット印刷してから読んでも構いません。
- ・カルタを取った人は裏面の解説を読み上げる、というやり方で、遊びながらジェンダー問題について学んでください。
- ・裏面に【議論】が書いてあるカードが出た時にはみんなで考えたり、議論してください。
- ・QRコードを何枚かに挿入していますので、時間的余裕がある場合は関連サイトにアクセスした上で、議論するなどしてください。
- ・白紙カードも入れておきますので、プレイヤーどうして新しいかるたを考え、追加して遊ぶことも可能です。
- ・2023年度版は札の最初の文字を水色にしていますが、2022年度版の黄色（ミモザの色）、2021年度版のうすだいたい色、そして2020年度版のピンク色と併せて（混ぜ込んで）遊ぶ（使う）ことも可能です。

インポスターが

女の

未来を奪う

えっくす

ジェンダーという

第三の性

アカン!

数値も順位も悪化

日本のGGI

「うちの主人」

聞いて感じる

違和感よ

い の説明

「インポスター症候群」とは、「責任ある地位に就くと風当たりが強そう」「成功するには優れた能力やカリスマ性がないと駄目」と思い込み、「私なんかが…」「女だから無理」などと過少な自己評価をすることをいう。労働環境を改善して、女性のみならず男性も含めてあらゆる人が働きやすい環境を整備していかなければなりません。

え の説明

Xジェンダーとは、日本で生まれた言葉で性自認のひとつ。男女以外の全ての性自認を包括する「第3の性」とも呼ばれ、人口の約1%に当たるとの見方もある。男女の中間と認識する「中性」や男女どちらの感覚も当てはまらない「無性」、性自認が流動的な「不定性」などに分かれる。2019年にLGBT総合研究所（東京）が国内の20～69歳の約35万人から回答を得たネットの調査では2・5%が該当した。

あ の説明

毎年発表される日本のジェンダーギャップ指数。日本は146カ国中125位と去年（2022年）の116位から順位を下げた。2006年の調査開始以来、過去最低。主要7カ国（G7）では最下位である。経済と政治の分野での格差が大きく、順位を下げる原因となっている。政治に関して言えば、女性国会議員の割合が低く（131位）、地方議会では男性ばかりというところも依然として多く残っている。

う の説明

配偶者の呼び方は夫・主人・旦那・亭主の4種類が一般的であるとされるが、現在では「主人」といえば「家来」が連想されるなどして、違和感を持つ人が多い。

【議論】 妻のことを「奥様」と呼ぶのはどうだろうか。みんなで話し合ってください。

かじ育児

「女性の仕事」

それはダメ

おんなの不満

ストライキで

大爆発

くるま業界

女性活躍推進で

新たな機能

き入例まで

問われる時代

ジェンダーよ

かの説明

総務省による2021年度「社会生活基本調査」の結果、6歳未満の子どもを持つ夫婦と子供の世帯について、夫と妻の1日当たりの家事関連時間をみると、夫は1時間54分に対して妻は7時間28分となっている。2016年の調査と比べると、夫は31分の増加、妻は6分減少したに過ぎない。

【議論】 男性の家事関連時間を増やすためのアイデアについて話し合ってください。

くの説明

自動車メーカーが発表している女性の管理職比率の最新版は、トヨタが3.4%（2023年）、ホンダが2.4%（2023年）、日産が10.3%（2022年）となっている。数値の高い日産では、両手が荷物でふさがっていたり、寝ている子どもを抱いていたとしても、ドアの下に足を入れるだけで開閉できる機能が採用されるなど、子育て経験者ならではのアイデアが車づくりに生かされている。

おの説明

アイスランドで1975年10月に行われたストライキでは、男女の賃金格差や性別による役割分担に不満を持った女性たちが、仕事や家事を一切行わずに街の広場などで抗議をした。当時の女性人口の9割が参加した大規模なものになった。その後このストライキは「女性の休日」と呼ばれるようになった。2023年10月にもストライキが行われ、ヤコブスドッティル首相（女性）も参加した。

きの説明

婚姻届の記入例について「夫の姓選択」が9割であったことが判明した（朝日新聞社がジェンダー平等を目指す団体が175自治体を調査）。今の民法では、婚姻後は夫か妻どちらかの姓を選び、片方は改姓する必要がある。2022年の婚姻の記入例では約95%が「夫の氏」を選んでいった。どちらの姓を選んでもいいはずなのに、無意識に夫の姓に誘導している可能性があるとして問題となった。

ご七五

詠みつつ学ぼう

ジェンダー平等

けしからん

するなさせるな

早期結婚

しん明解が説く

異性に限らぬ

恋愛対象

さい券で

救う途上国の

女性たち

この説明

この「ジェンダーギャップを考えるカルタ」も基本は五七五で詠んでいるが、2023年に広島県がジェンダー川柳コンテストを実施した。最優秀に輝いたのは、「ご飯まだ？ 帰った時刻 同じだよ」（奏来さん、10歳代）という句。他の川柳についても是非QRコードから見てください。



けの説明

女性の社会的地位が低い国や地域では根深い児童婚の慣習により、多くの女の子が教育機会を奪われている。さらに、未発達な身体での早すぎる妊娠・出産により合併症を患ったり、最悪の場合は命を落としたりすることもある。2023年時点で、推定6億4000万人の女性と女の子が18歳の誕生日を迎える前に結婚しているというデータがあり、最も児童婚の割合が高いのは南アジア地域である。

しの説明

三省堂が発刊している『新明解国語辞典』の第三版においては「れんあい【恋愛】」の説明が「特定の異性に特別の愛情をいだいて、二人だけで一緒に居たい、できるなら合体したいという気持ちを持ちながら、それが、常にはかなえられないで、ひどく心を苦しめる（まれにかなえられて歓喜する）状態」と書かれ、その後、版を重ねた第八版では、性的少数者に配慮し、対象者を「異性」と書くのをやめた。

さの説明

ジェンダーボンドとは、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」）が発行するソーシャルボンドのこと。調達された資金は、①ジェンダー平等・女性のエンパワメントを主目的とする事業（女子教育など）や②ジェンダー平等・女性のエンパワメント推進に資する事業（都市鉄道建設事業における女性専用車両や防犯カメラなど）に活用されるため、多くの企業や自治体が賛同し、投資を行っている。

せい理痛

追試はもはや

当たり前？

すきなこと

やりたいように

やればいい

だん子^しも

「さん」呼んでいる

小学校

そして女が

いなくなる

ジェンダーギャップが残る町

せ の説明

文部科学省は2023年11月、月経痛や月経前症候群（PMS）で高校入試を欠席した場合、追試験の対象とするよう求める通知を年内に都道府県教育委員会などに出す方針を固めた。毎日新聞が全都道府県にアンケートを実施したところ（2023年9月）、約3割の15道府県が生理に伴う体調不良が「追試」の対象になると回答したが、11府県が追試の対象外であった。

た の説明

大学ではいまだに男子学生のことを「〇〇君」と呼ぶ場合が多いが、小学校では先生が男子児童のことを「〇〇さん」と呼んでいる。最高学府よりも小学校の教育現場の方が意味「進んでいる」証拠ではないでしょうか。

【議論】 皆さんは「さん」で呼ぶ（or呼ばれる）ことに違和感を感じますか？

す の説明

男子がプリキュアを好きや女子が仮面ライダーが好きなことを馬鹿にする人がいるが、好きなことをやることは他の人は止めたり批判することはできない。その人の好きなことは尊重されるべきである。

【議論】 あなたの「好きなこと」についてグループ内でシェアしてみよう！

そ の説明

ジェンダーギャップの解消に努める兵庫県豊岡市では、若い女性の流出に危機感を抱いたため、独自に定義する若者回復率（10代の転出超過人口に対する20代の転入超過人口の割合）を調査。女性が男性の半分しか戻っていないことが判明した。家庭内外における性別役割分担や賃金格差、女性に偏る非正規雇用など改善すべき問題は多い。

つみ重ねれば

私もなれる

管理職

ちえつくして

改善しよう

都道府県版GGI

どう性婚

まずは

憲法改正を

でいぶ (DEIB)

浸透してきた

多様性の大切さ

つ の説明

女性が安心して働けるよう、環境や法制度を整える必要がある。例えば米国カリフォルニア州では、女性が安心して働けるよう12週間の産前産後休暇を設け、家族医療休暇法を定める。最長カリフォルニア家族法や、2004年に男女の賃金格差を取り除く為、雇用の際に候補者の過去の給料額を聞いてはならない」という法律を制定してる。

と の説明

日本で同性婚を実現するには、国会で、法律上の性別が同じ者どうしであっても結婚できるように憲法を改正する必要がある。2021年3月末に行われたNHKによる「ジェンダーに関する世論調査」によれば、同性婚を認めるに賛成が57%、反対が37%、わからないが7%という結果が出ている。しかし、別の調査では60歳以上の男性で賛成が39%、反対が44%という結果が出るなど世代間ギャップの存在が確認された。

ち の説明

ジェンダーギャップ指数の都道府県版が作成され、毎年発表されている。自分の関係する都道府県のランキングに一喜一憂することなく、どうすればジェンダーギャップを解消することができるのかどうか、について考えることが重要である。

【議論】自分が所在する都道府県のGGIを調べた上で議論しよう



て の説明

DEIBは、Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(包括性)、Belonging(帰属)の略で、会社に属する社員が、それぞれの持つ多様な個性が受け入れられ、等しい機会をもち、心理的安全性(自分の意見や気持ちを安心して表現できる状態)が保たれている状態を指す。「働きやすさ」や「働きがい」そして会社組織全体の「ウェルビーイング」とも関連する重要なワードである。

にっぽん男児も

弱音を吐いて

いいんだよ

ねれない

寝ていない

日本の女たち

「ならでは」で

決めつける

息苦しさ

ぬぐう汗

男子に限らぬ

甲子園

に の説明

11月19日は国際男性デー。ジェンダー平等への取り組みが広がる中、「男らしさ」を求められて苦しんでいる男性もまた多いという現実がある。ある県の悩み相談窓口に男性から寄せられた件数が6年連続で女性の約2割にとどまっているというデータがあるが、専門家は「弱音を吐けない」という男性の思い込みが背景にあると指摘する。

な の説明

岸田文雄首相は2023年9月の内閣改造で女性閣僚5人を登用した際に「女性ならではの感性や共感力も十分発揮していただきながら、仕事をしていただくことを期待したい」と発言したため、SNS上を中心に「『男性ならではの』とは言わないのに」「ジェンダーバイアスを強化する発言をしないで」などといった批判や戸惑いの声が上がっていた。

【議論】身のまわりにある「ならではの」について話し合ってみよう！

ね の説明

2021年版の経済協力開発機構（OECD）の調査では、33カ国中、日本人の平均睡眠時間は7時間22分と最短で、男性より女性のほうが13分短かった。男性の家事労働時間は依然として改善が見られないので、いっそのこと「ママはもう寝るからあとはよろしく」とパパに家事を任せてはいかがだろうか。※国の21年の社会生活基本調査で6歳未満の子がいる共働き夫婦の家事関連時間を見ると、妻は6時間33分、夫は1時間55分。その差は1日あたり4時間38分。

ぬ の説明

2023年、甲子園球場で行われたセンバツ高校野球で、徳島・城東高校の女子マネージャーが試合前の練習でノッカーを務めた。春夏の甲子園で女子がノッカーを務めるのは初めてで、これまでは練習時にボールの渡し役として参加しただけで、規定違反とされたことがあっただけに、大幅な規制緩和となった。

はく害で

難民認定もありうる

同性愛

のっても

乗らせてもアカン

マミートラック

ブタではなく

男性に

真珠

ひ難所で

無くては困る

女性目線

は の説明

アフリカ東部ウガンダ出身で同性愛者の30代女性が「帰国すると迫害される恐れがある」として、難民と認めることなどを国に求めた訴訟の判決が2003年3月15日、大阪地裁であった。生命や自由が脅かされかねない人々が、入国を拒まれあるいはそれらの場所に追放したり送還されることを禁止する国際法上の原則を「ノンルフールマン原則」という。

の の説明

マミートラックとは、女性社員が産休や育休から復帰した際に、担当業務や部署、勤務時間を変更されてしまい、その後のキャリア形成が阻害されることを意味する。企業としては働きやすさを追求した上で環境改善に努めなければならない。女性の経営者や管理職が少ないという問題に直結するため、マミートラックの解消が日本のジェンダーギャップを改善する近道にもなるはずだ。

ふ の説明

化粧品やスキンケアの「メンズケア商品」の売り上げが伸びる中、性差の固定観念に縛られず、自分に合ったおしゃれを楽しむ男性が増えてきている。これまで「真珠は女性のモノ」という「常識」を覆すようなかたちで実際に男性向けの真珠商品がたくさん販売されている。

【議論】 あなたは男性が真珠を身につけることに賛成ですか？反対ですか？

ひ の説明

2024年元日には能登半島地震が発生し、多数の犠牲者が出たほか、現在でも行方不明者や避難している人も多い。避難所では、従来から女性や要配慮者の困難が課題となっており、最近では避難所運営に女性の視点を入れることの大切さが謳われるとともに関連のセミナーや講演も増えてきている。

ほん気だね

スペインでは

4割が女性取締役

へんだよね

賃金格差

無くそうよ

みや城県名取市に

100%取得の

コツを聞くべし

まだのところは

MEPS(ウェツプス)

ご検討くださいませ

ほの説明

2023年3月8日の「国際女性デー」を前に、スペイン政府は、政治やビジネスの分野で女性と男性の参加の割合をより均等にするよう義務づける「ジェンダー平等法案」を発表した。法案では、2024年7月までに、上場企業の取締役の40%以上を女性とするよう義務づけているほか、内閣の閣僚や地方自治体の行政機関、それに公的な団体の代表についても、2028年までに40%以上を女性とするよう求めている。

みの説明

宮城県名取市は、2022年度における男性職員の育児休業取得率100%を達成した。名取市では、フォローシートを作成し、育休を希望する職員と所属長が面談を行って事前に業務を調整するなど取得を後押ししてきたことが功を奏し、その結果、去年、対象となった男性職員9人が全員、5日から1か月程度の育休を取得した。

への説明

男女間賃金格差は長期的に見ると縮小傾向にあると言われているが、令和3（2021）年の男性一般労働者の給与水準を100としたときの女性一般労働者の給与水準は75.2となっている。厚生労働省の2022年賃金構造基本統計調査によれば、月額ベースでは男性34万2,000円、女性25万8,900円となっている。世界と比較しても、G7の中では日本の賃金格差が一番大きい。

まの説明

WEPsとは、女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles）のことで、企業がジェンダー平等と女性のエンパワーメントを経営の核に位置付けて自主的に取り組むことで、企業活動の活力と成長の促進を目指す国際的な原則である。「トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進」や「機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃」など7つの原則がある。

「めしまだか？」

昭和の父は

滅びゆく

むかしは

看護婦

今は看護師

やめてみない？

「家内」という

呼び方

もはや

同額にしては？

スポーツ大会の賞金

めの説明

「仕事から疲れて帰ると、夫が「ご飯まだ？」…家事をしない夫とどう対峙する？」といったテーマはジェンダー問題との関連でしばしば話題に。〇十の手習いで料理をマスターしてもらえないのでしょうか。料理が出来なければ、家事育児、あるいは介護において活躍の場を見出してもらえないといけません。あなたの家に居る「父」はどうですか？

やの説明

「妻」のことをどう呼ぶか。「家内」は、女性は家の中で家事育児をすべきであるという時代遅れの呼び方。また、「嫁」は正確には「自分の息子の所に嫁いだ女性」という意味で、「夫」の親が使う言葉である。逆に妻が「夫」のことを「主人」などと呼ぶ場合もあるが、ジェンダー平等の観点からは疑問なしとしない。

むの説明

性的役割分担意識が強かった昭和の時代は終わり、最近では男女を問わず活躍する職業が増えている。看護師の他にも、「保母さん」は「保育士」になり、「婦人警察官」は「(女性)警察官」そして「スチュワーデス」は「客室乗務員」もしくは「キャビンアテンダント」など。ちなみにJR東日本では、男女同じデザインの制服が導入されるなどしている。

もの説明

テニスのウィンブルドン大会では男女シングルスとも優勝賞金が同額で235万ポンド(約4億3000万円)となっているが、サッカーのワールドカップの賞金総額は男子が4億4000万ドル(2022年)なのに対して女子が1億1000万ドル(2023年)である。また、大きなスポーツ大会の決勝戦で「オオトリ」をつとめるのは男子の試合なのか、女子の試合なのか、といった事も問題視されるようになってきた。

よはウェルビーイング

ジェンダーも

意識しましょう

りょうりは

女性がすると

決まっているの？

ゆにセックスと

ジェンダーレスでは

違いあり

らしさに囚われず

心の声に

耳を傾けよう

よの説明

ジェンダーギャップを解消することは、職場や家庭におけるウェルビーイングの実現に繋がる。最近では、福利厚生
の範囲にとどまらず、企業経営の戦略として謳われるようになっており、品質
サービスや顧客満足度の向上などの他、人材確保や企業価値の向上などの
メリットがある。関連ワードとして「ワークライフバランス」「ワークライフ
シナジー」についても調べてみよう！

りの説明

1985年の女子差別撤廃条約の批准を受けて、1989年告示の学習
指導要領においては、中学校の技術・家庭科では、男子と女子で履
修領域の範囲に差異を設けている扱いを改め、男女同一の扱いをする
とともに、高等学校の家庭科では男女ともに必修の教科とされた。

※本札は帝塚山大学の協定校である奈良育英高等学校・中学校の生徒さんが作成

ゆの説明

ジェンダーレスが、性別に関する枠組みやステレオタイプにとらわれない
考え方やスタイルを指し、性別を無視したうえで自己表現を追求するの
に対して、ユニセックスとは、性別を無視しないで、男性と女性の両方が
使えるデザインやスタイルを追求するところに違いがある。このように「性
別を無視するかどうか」が違いを理解するうえでのカギとなる。

らの説明

実は、AIに「ら」で始まるジェンダー川柳を詠んでとお願いした
ところ、できたのがこの札です。ちなみに3つ提案してくれたの
ですが、他の2つは「らせんのよう 自己を旋回する ジェン
ダーら」と「束縛抜けて 自由に舞い踊る らんぼうなら」でした。
言葉のセンスにおいてはまだまだ人間には及びませんね（笑）。

れつの並び

男女別は

もう古い！

るーるブック

家庭のものは

存在しない

われ関せず

いけないのは

みんなの無関心

ろんより

証拠の

ブラインドオーディション

れの説明

学校の教育現場における列や名簿は、時代を経るにしたがって分けなくなってきた。LGBTQ+の生徒に対するインクルーシブな対応とも言える。男女混合名簿については、高知市の小中学校、福岡市の小学校のように、100%導入されている地域がある一方、50%に満たない地域もある。

※本札は帝塚山大学の協定校である奈良育英高等学校・中学校の生徒さんが作成

るの説明

家庭内不和の状態よりも家庭内平和の方が良いに決まっている。その家庭ごとにルールを決め、家族の構成員がお互い気持ちよく健康な毎日をお過ごすことができるようにしましょう。

【議論】 自分のおうちの独自のルールについて意見交換してみよう!

※本札は帝塚山大学の協定校である奈良育英高等学校・中学校の生徒さんが作成

わの説明

今回、2023年度版をリリースすることによって「ジェンダーギャップを考えるカルタ」は4年分作ったことになります。「まずは知ることから」・・・カルタとして遊ぶだけではなく、1枚選んで朝礼や会議などで議論のきっかけとして使用することも大歓迎なのです。「無関心は文化的暴力」とは、平和学の父と言われた故ヨハン・ガルトウング博士の言葉です。

ろの説明

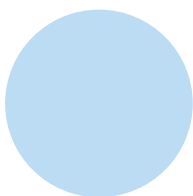
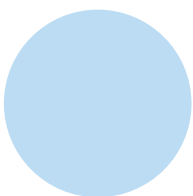
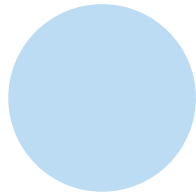
2023年のノーベル経済学賞を手にしたのは、ハーバード大のクラウディア・ゴールドフィン教授。ブラインドオーディションとは、オーディションを受ける人の前にスクリーンが置かれ、演奏者の性別や人種を審査員に見えなくするやり方。すると非白人や女性の合格比率が高まった。人は誰でも無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)を持っていると言われてるが、あなたはどうか?

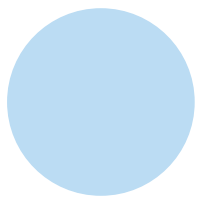


をとっこ目線で

作られていた

車のシートベルト



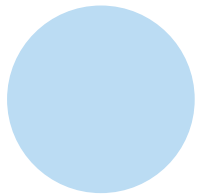


の説明

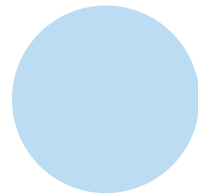


をの説明

ジェンダードイノベーションとは科学・技術分野における研究や開発のプロセスに、積極的に性差分析を組み込んでいくことで、イノベーションと発見を実現するという概念のこと。例えば、これまで自動車のシートベルトは男性を基準に作られてきたが、ジェンダードイノベーションにより、近年は、さまざまな性別・体型を考慮したシートベルトの設計が進んでいる。



の説明



の説明

保護者の皆様へ
教育現場の先生方へ

ジェンダーとは何か (指導の手引き)

ジェンダー (gender) とは「社会的・文化的に形成された性別」のことであり、人間には生まれつきの生物学的性別がある一方で、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別をといてされています (内閣府男女共同参画局の定義による)。まずはジェンダーとは何か、その定義を子どもたちに理解してもらってから、現在、どういった問題が発生しているのかをGGKK (ジェンダーギャップを考えるカルタ) で遊びながら知り、議論し、そしてジェンダー平等が実現されたより良い社会になるために私たちはどうすれば良いのかについて考えてください。

< GGKK (ジェンダーギャップを考えるカルタ) で遊ぶ前に必要な説明事項 >

- ・ジェンダーとは何か (定義)
- ・ジェンダーギャップ指数やガラスの天井指数にみられるように、日本においてはジェンダー問題があり、女性が差別される現状や、女性の権利が侵害されてきた歴史がある。(男性が逆に差別されるという場面も無いわけではありません。)



ジェンダーギャップ指数（GCI：Gender Gap Index）とは何か

世界経済フォーラム（World Economic Forum）が公表した、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）は、経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示している。2022年の日本の総合スコアは0.647、順位は順位は146か国中125位であった。今年度版のカルタ札にも入れたが、順位も数値も悪化しており、これはジェンダーギャップが大きくなったことを意味する。

GGI（2023）

上位国及び主な国の順位

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.912
2	ノルウェー	0.879
3	フィンランド	0.863
4	ニュージーランド	0.856
5	スウェーデン	0.815
6	ドイツ	0.815
15	英国	0.792
30	カナダ	0.770
40	フランス	0.756
43	米国	0.748
79	イタリア	0.705
102	マレーシア	0.682
105	韓国	0.680
107	中国	0.678
124	モルディブ	0.649
125	日本	0.647
126	ヨルダン	0.646
127	インド	0.643

日本の各分野におけるスコアと順位

分野	スコア（2023年）	スコア（2022年）	スコア（2021年）	スコア（2020年）	スコア（2019年）
経済	0.561（123位）	0.564（121位）	0.604（117位）	0.598（115位）	0.595（117位）
政治	0.057（138位）	0.061（139位）	0.061（147位）	0.049（144位）	0.081（125位）
教育	0.997（47位）	1.000（1位）	0.983（92位）	0.983（91位）	0.994（65位）
健康	0.973（59位）	0.973（63位）	0.973（65位）	0.979（40位）	0.979（41位）



内閣府男女共同参画局 HP 男女共同参画に関する国際的な指数 GGI ジェンダー・ギャップ指数

https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html

ガラスの天井指数（GCI：Glass Ceiling Index）とは何か

英国エコノミスト誌が毎年、3月8日の国際女性デーに発表する「ガラスの天井指数（GCI：Glass Ceiling Index）」がある。GCIはOECD加盟国でもある先進29か国において、女性が男性と比べて職場においてどれだけ平等に扱われているのか、ということを用いた10の指数を用いて表現した指数であり、「ガラスの天井」とは、「男性が組織の上層部を支配しているという状況において、資質又は成果にかかわらずマイノリティ及び女性の組織内での昇進（キャリアアップ）を妨げる、制度上、女性にも機会が開かれているようで実際には開かれてはいない、見えないが打ち破れない障壁」を比喩的に表現したものである。

2021年はスウェーデンが首位となり、日本は先進29か国中、最下位から2番目の28位となった（最下位は韓国）。日本以外には、スイスやトルコ、韓国が下位を占めており、これらの4か国の順位は10年間変動していない。エコノミストは、「女性が家族と仕事の選択を迫られる日本と韓国が下位にとどまっている」と指摘している。

【GCIにおける日本の順位】 ※2021年のデータ

高等教育	23位	日本では高等教育における女性の成績は男性よりも2.4%ポイント優れている。
労働参画率	23位	日本では女性の就労率が男性よりも13.8%ポイント低い。
賃金格差	28位	日本では女性の賃金が男性よりも23.5%低い。ちなみに最下位は韓国で、その男女差は32.5%。
管理職	29位	全管理職中14.8%が女性で日本が最下位。1位のポーランドは43%である。
役員	27位	全役員中10.7%が女性である。ちなみに最下位は韓国で4.9%の役員が女性。1位のアイスランドは44.4%である。
GMAT受験者数	29位	最下位。21.4%のGMAT受験者が女性である。
国会議員	29位	最下位。すべての国会議員のうち9.9%が女性である。1位のニュージーランドは48.3%である。
育児費用	24位	最下位から6番目。総育児費用は平均賃金の25%を占める。
女性の育児休暇	9位	女性の有給育児休暇は35.8週取得できる。1位のハンガリーは68.2週取得できる。
男性の育児休暇	1位	男性の有給育児休暇は30.4週取得できる。

※ GMAT（Graduate Management Admission Test）とは、大学院レベルにおいてビジネスを学ぶために必要な分析的思考力、言語能力、数学的能力を測るための試験であり、ビジネススクール（経営大学院）への入学希望者を対象に行われる入学適性テストとしても利用されている。



<https://infographics.economist.com/2021/glass-ceiling/index.html>

2022年のガラスの天井指数によれば、スウェーデン（1位）、アイスランド（2位）、フィンランド（3位）が上位を占め、日本は28位であった。今年は調査が始まって節目の10年目、当初は26か国を5つの指標で調査していたが、今日においては、29のOECD諸国を10の指標で分析の上、ランキングを算出しているという。

<https://www.economistgroup.com/group-news/the-economist/women-are-still-not-having-it-all-according-to-the-economists-2022-glass>

GGKK (ジェンダーギャップを考えるカルタ) 一覧 (2020 年度版)

かるたの文言

1	あ	争いのもとに 言葉少なき夫
2	い	「育メン」言うてるうちは ジェンダー後進国
3	う	うん、さすが! と唸りたくなる 東大入学式の祝辞
4	え	映画を観て ジェンダーを 学ぶこともまた良し
5	お	「男のくせに」「女だから」は禁句
6	か	価値ある テクノロジー フェムテック
7	き	気がつけば 男の子も 泣く時代
8	く	苦しまないで独りで みんなで突き破ろう ガラスの天井
9	け	憲法にも明記されている 男女平等
10	こ	校長先生も女性が増えてきたけど まだ少ない
11	さ	「産休とります」に対しては「おめでとう!」が正解
12	し	知ってる? バアドやパダルという名の悪しき慣習
13	す	少ないのは何故? 男性のジェンダー研究者
14	せ	「説明しない妻」の先を必死に読む夫
15	そ	それはオランプ・ド・グージュ 女権宣言から始まった
16	た	男女共同参画で ジェンダー問題を 丸くおさめよう
17	ち	ちょっとした 企業努力でゲット えるぼし&くるみん
18	つ	勤めているのは 専業主婦もまた同じ
19	て	手伝いではなく 一緒にやる家事
20	と	どんな靴を履くかは 自由だ! # Kutoo 運動
21	な	無くそう男女格差 守ろう男女雇用機会均等法 (こきんほう)
22	に	日本の ガラパゴス的 性教育
23	ぬ	ぬかりなく 保障されるべき セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス (ライツ)
24	ね	粘り強く 廃止を訴えるべき 児童婚
25	の	野放しはダメ 直接差別も 間接差別も
26	は	パパはやらないの? 名もなき家事
27	ひ	121 位というジェンダーギャップ後進国・日本
28	ふ	フラワーデモで 性暴力根絶 毎月 11 日
29	へ	北京女性会議から どれだけ進歩した 女性の権利
30	ほ	暴力と差別を無くそう 10 月 11 日は国際ガールズ・デー
31	ま	ままごとを男子がしても良い時代
32	み	#MeToo 運動で守る 女性の尊厳 許さない性暴力
33	む	無理しなくても 実現できるはず 選択的夫婦別姓
34	め	名誉殺人の被害者 世界で年間 5000 人
35	も	もうやめようよ 意味のない FGM
36	や	やればできるよ アイスランドは男性の育休 85%
37	ゆ	ゆがみを正せ アンコンシャスバイアス
38	よ	世の中から無くなれ ミソジニーという名の女性嫌悪
39	ら	ランドセル 何色がいいかは 子が決める
40	り	「良妻賢母」は言うけど 「良夫賢父」と言わないのはどうして
41	る	ルワンダの女性国会議員はクォータ制で 6 割達成
42	れ	歴史を変える 鍵となるか なでしこ銘柄
43	ろ	論争と言えば 晶子とらいてうによる 母性保護論争
44	わ	「ワンオペ育児」と「育メン」は 死語にすべき言葉
45	を	をんなの話は長い

※「を」については最近話題になりましたので、「をんなの話は長い」以降の文句を遊ぶ人どうして議論してカルタを完成してください。



帝塚山大学 国際法・平和学



すべて ニュース 画像 書籍 動画 もっと見る

約 193,000 件 (0.50 秒)

<https://sueyoshi0.wixsite.com/tzk-peacestudies>

戦争と平和 | 帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミ - Wix.com

帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミのHPです。戦争と平和について研究しています。... 帝塚山大学同窓会の学生チャレンジ制度に採択され、2020年に作成。

2020 年度版と 2021 年度版は帝塚山大学国際法平和学ゼミの HP から閲覧 & ダウンロード可能です (無料)。



GGKK (ジェンダーギャップを考えるカルタ) 一覧 (2021 年度版)

かるたの文言

1	あ	あら不思議 パラレル家事で 妻ご機嫌
2	い	いないよね 女性の総理 なんだろう
3	う	うまいこと広めたい 奈良県の ワーク・ライフ・シナジー
4	え	エンパシー シンパシーとは違う意味
5	お	おんなだけの 問題ではない 「生理の貧困」
6	か	顔写真 なくていいよね 履歴書に
7	き	きっと同じ味のはず 男性が 入れたお茶も
8	く	苦労が続く 男女間賃金格差の是正
9	け	結婚に自由を 一度きりの 人生だから
10	こ	子育ては「手伝う」ではなく「する」ものだ
11	さ	さあ！これから増えていくよ 女性消防官
12	し	「女子力高いね」は 男の願望
13	す	スラックスでも OK！ みんな笑顔のジェンダーレス制服
14	せ	ゼブラ方式 言うけど シマウマは関係ないで
15	そ	それでもまだ少ない ビジネス界の女性役員
16	た	助け合い 性別 年齢 関係ない
17	ち	注意しないと うっかり SOGI (ソジ) ハラになる時代
18	つ	つらいのは 男も同じ 「らしさ」求められ
19	て	「敵国」の女性が拓 (ひら) いた 日本の未来
20	と	同性婚 愛さえあれば 関係ねえ
21	な	名が変わる それはいつも 女性側
22	に	日本のは 罰則がない パリテ法
23	ぬ	抜け出せるかは あなた次第 GGI (ジェンダーギャップ指数) 120 位
24	ね	狙いは明確 九州大学 (きゅうだい) の 配偶者帯同雇用制度
25	の	望む人には まずチャレンジできる 公平なチャンスを
26	は	配偶者を 嫁や家内と 呼ぶなかれ
27	ひ	ピンクタックス 女性用商品は なぜ高い
28	ふ	不公平 男と女の 賃金格差
29	へ	へえ！ パパの育休取得で ファミリー全体に好影響
30	ほ	防災もジェンダー 避難所でも 意識しよう
31	ま	摩訶不思議 103 万円以上 稼げない？
32	み	みんな感じるはず 「イクジョ」の違和感
33	む	無茶ブリを 女性候補にするのは 「票ハラ」です
34	め	目も当てられぬ コロナ禍で進む ジェンダー不平等
35	も	もはや 出版社が絶版を望む 駄言辞典
36	や	やるやん！ 奈良女子大学 (ならじょ) 女子大初の工学部
37	ゆ	ユニタードを着るといふ 女性アスリートの権利
38	よ	世の夫 家族養えど 家事しない
39	ら	来月も安心だね 無料ナプキンの配布
40	り	理不尽とは このこと 合格ライン性差
41	る	ルッキズム 見た目で判断してはならぬ時代
42	れ	レガシー どこへ行った 東京オリパラ
43	ろ	ろくでもない 女性蔑視の タリバン政権
44	わ	わざわざ 「女性活躍」 言わねばならぬ日本
45	を	をどこでも スキンケアは 当たり前

GGKK (ジェンダーギャップを考えるカルタ) 一覧 (2022 年度版)

かるたの文言

1	あ	ありえない 断罪されるべき 性暴力
2	い	家の為 命を削る 男たち
3	う	移りゆく時代 フェムテックから ジェンダード・イノベーションへ
4	え	MLBの産休制度で ベイビーは サンキュー!
5	お	お父さんの 作ったご飯も 美味しいな
6	か	学校関係 母に連絡 父関せず
7	き	救急隊 もっと女性を 増やそうよ
8	く	工夫だね! インスタで性教育 清泉 Tweedia
9	け	ケタ違いの損失 婦人科系疾患で 6.37 兆円/年
10	こ	これも時代の流れだね 母子手帳から親子手帳へ
11	さ	妨げる 女性活躍 性別の違いだけで
12	し	知ってはいるけど 他人事? LGBTQ+ のこと
13	す	すでに 防災用としての備蓄はある 生理用品
14	せ	戦争は 女の顔も している
15	そ	その手があったか! OiTr (オイテル) で「生理の貧困」を解決
16	た	男性中心を見直す 技術革新 ジェンダードイノベーション
17	ち	調査報告書が 明らかにする JK の実情
18	つ	つまり 誰もが使いやすい オールジェンダートイレ
19	て	D & I は 企業に 不可欠な時代
20	と	取らぬなら 取らせてみよう 育児休暇
21	な	仲間がいるよ 当事者だけでなく アライが寄り添う
22	に	286 年という説も ジェンダー平等の達成にかかる年月
23	ぬ	塗り替えるのは肌だけではない ポーラのジェンダー意識改革
24	ね	寝ても覚めても ママの 家事負担は大
25	の	「のびしろがある」とも言える 日本の GGI (ジェンダーギャップ指数)
26	は	パパ何もせず「子ども」が増える? 育休の実態
27	ひ	広げよう LGBTQ+ に関する理解の輪
28	ふ	夫婦でシェアして経済的に? ジェンダーレスコスメ
29	へ	へえー! 132 年もかかる ジェンダー平等
30	ほ	ほんとに平等? ひとり親への 待遇差
31	ま	マイクロアグレッション 意図せずとも 相手は傷つく
32	み	みんな嬉しい 企業も嬉しい ポジティブアクション
33	む	無月経問題 勝利至上主義を 考え直そう
34	め	「メアリーは 出生時は男性とされていた 女性である」
35	も	求められる ジェンダーの視点は 気候変動にも
36	や	やれるなら やってみるべし 男性による家事育児
37	ゆ	許せない! アートの世界でも ジェンダー不平等
38	よ	ようやく シングルファーザーに朗報の ひとり親控除
39	ら	楽な道のりは無し 平等な家事分担
40	り	リスペクトの 心で触れ合う 多様性社会
41	る	ルーツは トリニダード・トバゴにあり 国際男性デー
42	れ	レゴも シルバニアも ジェンダーフリーに
43	ろ	論議を呼んだ WCUP 開催地のカタールは GGI (ジェンダーギャップ指数) 137 位
44	わ	わるくても ママに親権 「パパいらない」
45	を	をとこたちが 後押しする 女性活躍の推進

GGKK（ジェンダーギャップを考えるカルタ）一覧（2023年度版）

かるたの文言

1	あ	アカン！ 数値も順位も悪化 日本のGGI
2	い	インポスターが 女の 未来を奪う
3	う	「うちの主人」 聞いて感じる 違和感よ
4	え	えっくす ジェンダーという 第三の性
5	お	おんなの不満 ストライキで 大爆発
6	か	家事育児 「女性の仕事」 それはダメ
7	き	記入例まで 問われる時代 ジェンダーよ
8	く	車業界 女性活躍推進で 新たな機能
9	け	けしからん するなさせるな 早期結婚
10	こ	五七五 詠みつつ学ぼう ジェンダー平等
11	さ	債券で 救う途上国の 女性たち
12	し	新明解が説く 異性に限らぬ 恋愛対象
13	す	好きなこと やりたいように やればいい
14	せ	生理痛 追試はもはや 当たり前？
15	そ	そして女がいなくなる ジェンダーギャップが残る町
16	た	男子も「さん」 呼んでいる 小学校
17	ち	チェックして 改善しよう 都道府県版GGI
18	つ	積み重ねれば 私もなれる 管理職
19	て	DEIB（でいぶ） 浸透してきた 多様性の大切さ
20	と	どう性婚 まずは 憲法改正を
21	な	「ならでは」で 決めつける 息苦しさ
22	に	にっぽん男児も 弱音を吐いて いいんだよ
23	ぬ	拭う汗 男子に限らぬ 甲子園
24	ね	寝れない 寝ていない 日本の女たち
25	の	乗っても 乗せられてもアカン マミートラック
26	は	迫害で 難民認定もありうる 同性愛
27	ひ	避難所で 無くては困る 女性目線
28	ふ	ブタではなく 男性に 真珠
29	へ	変だよ 賃金格差 無くそうよ
30	ほ	本気だね スペインでは 4割が女性取締役
31	ま	まだのところは WEPs ご検討くださいませ
32	み	宮城県名取市に 100%取得の コツを聞くべし
33	む	昔は看護婦 今は看護師
34	め	「飯まだか？」 昭和の父は 滅びゆく
35	も	もはや同額にしては？ スポーツ大会の賞金
36	や	やめてみない？ 「家内」という呼び方
37	ゆ	ユニセックスと ジェンダーレスでは 違いあり
38	よ	世はウェルビーイング ジェンダーも意識しましょう
39	ら	らしさに囚われず 心の声に 耳を傾けよう
40	り	料理は 女性がすると 決まっているの？
41	る	ルールブック 家庭のものは 存在しない
42	れ	列の並び 男女別は もう古い！
43	ろ	論より証拠の ブラインドオーディション
44	わ	わが故郷（ふるさと）の 都道府県版GGIを 調べよ
45	を	をとこ目線で 作られていた 車のシートベルト

参考文献リスト（各種年代順）

（カルタ制作のため参考にした書籍等。※過去の年度分を含む）

<本>

- 辻村みよ子『女性と人権 歴史と理論から学ぶ』（日本評論社、1997年）
松本侑壬子『シネマ女性学』（論創社、2000年）
白須英子『イスラーム世界の女性たち（文春新書）』（文藝春秋、2003年）
ベティ・フリーダン（原著、翻訳）、三浦 富美子（翻訳）『新しい女性の創造 改訂版』（大和書房、2004年）
金城清子『ジェンダーの法律学 第2版（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2007年）
上野千鶴子『女ざらいーニッポンのミソジニー』（紀伊國屋書店、2010年）
上野千鶴子『〈おんな〉の思想 私たちは、あなたを忘れない』（集英社インターナショナル、2013年）
アイシェ・ヨナル（著）、安東 建（翻訳）『名誉の殺人母、姉妹、娘を手にかけて男たち（朝日選書）』（朝日新聞出版、2013年）
五百田達成『察しない男 説明しない女』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2014年）
大越愛子・倉橋耕平『ジェンダーとセクシュアリティ 現代社会に育つまなざし』（昭和堂、2014年）
ワレン・ファレル著、久米泰介訳『男性権力の神話 《男性差別》の可視化と撤廃のための学問』（作品社、2014年）
久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵（編）『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015年）
青野篤子（編集）『アクティブラーニングで学ぶジェンダー：現代を生きるための12の実践』（ミネルヴァ書房、2016年）
加藤秀一『はじめてのジェンダー論』（有斐閣、2017年）
高草木陽光『なぜ夫は何もしないのか なぜ妻は理由もなく怒るのか』（左右社、2017年）
村田晶子・弓削尚子『なぜジェンダー教育を大学でおこなうのか：日本と海外の比較から考える』（青弓社、2017年）
奥田祥子『「女性活躍」に翻弄される人びと（光文社新書）』（光文社、2018年）
東京都産業労働局『平成30年度 雇用平等ガイドブック 男女雇用機会均等法のポイント』（2018年）
二宮周平『18歳から考える家族と法』（法律文化社、2018年）
イリス・ボネット『ワークデザインー行動経済学でジェンダー格差を克服するー』（NTT出版、2018年）
浅倉むつ子・萩原久美子・神尾真知子・井上久美枝『労働運動を切り拓く 女性たちによる闘いの軌跡』（旬報社、2018年）
シェリル・サンドバーグ『LEAN IN(リーン・イン) 女性、仕事、リーダーへの意欲（日経ビジネス人文庫）』（日本経済新聞出版、2018年）
清末愛砂・前田朗・桐生佳子『平和とジェンダー正義を求めて：アフガニスタンに希望の灯火を』（耕文社、2019年）
武田佳奈『フルキャリアマネジメント：子育てしながら働く部下を持つマネジャーの心得』（東洋経済新報社、2019年）
濱野京子・寮美千子『平塚らいてう / 萱野茂：女性・先住民の権利をもとめた人びと（非暴力の人物伝）』（大月書店、2019年）
レイチェル・ギーザ（著）、富田直子（翻訳）『ボーイズ 男の子はなぜ「男らしく」育つのか』（DU BOOKS、2019年）
一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同（著）、佐藤文香（監修）『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみたーあなたがあなたらしくいられるための29問』（明石書店、2019年）
ビル・エモット（著）、川上純子（翻訳）『日本の未来は女性が決める！』（日本経済新聞出版、2019年）
三成美保・笹沼朋子・立石直子・谷田川知恵『ジェンダー法学入門 第3版』（法律文化社、2019年）
前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店、2019年）
東京都産業労働局『令和元年度 雇用平等ガイドブック 女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法のポイ

ント』(2019年)

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学 データ分析でわかった結婚、出産、子育ての現実』(光文社、2019年)

林香里・小島慶子・山本恵子『足をどかしてくれませんか。——メディアは女たちの声を届けているか』(亜紀書房、2019年)

ナショナルジオグラフィック(編集)『Women ここにいる私 あらゆる場所の女性たちの、思いもかけない生き方』(日経ナショナルジオグラフィック社、2020年)

WiMN『マスコミ・セクハラ白書』(文藝春秋、2020年)

メアリー・ピアード(著)、宮崎真紀(翻訳)『舌を抜かれる女たち』(晶文社、2020年)

蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)(中公新書)』(中央公論新社、2020年)

上野千鶴子・田房永子『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください!』(大和書房、2020年)

日本婦人団体連合会(編集)『女性白書2020 ジェンダー不平等を超える「北京+25」』(ほるぷ出版、2020年)

神谷悠一・松岡宗嗣『LGBTとハラスメント(集英社新書)』(集英社、2020年)

特定非営利活動法人 性暴力救援センター・東京『大切なことを伝えたい 性暴力被害者支援ガイド』(2020年)

フラワーデモ『フラワーデモを記録する』(エトセトラブックス、2020年)

WiMN『マスコミ・セクハラ白書』(文藝春秋、2020年)

男女共同参画局『共同参画』(2020年3・4月号)

https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/202003/202003_07.html

川勝泰介(編集)『よくわかる児童文化』(ミネルヴァ書房、2020年)

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書(令和2年版)』(勝美印刷、2020年)

上谷さくら・岸本学『おとめ六法』(株式会社KADOKAWA、2020年)

ポール・ナサンソン+キャサリン・K・ヤング著、久米泰介訳『法制度における男性差別 合法化されるミサンドリー』(作品社、2020年)

ジョニー・シーガー『女性の世界地図 女たちの経験・現在地・これから』(明石書店、2020年)

治部れんげ『「男女格差後進国」の衝撃 無意識のジェンダー・バイアスを克服する』(小学館、2020年)

太田啓子『これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるためのレッスン』(大月書店、2020年)

東京都『多様な性について知るBOOK』(2020年)

MASH大阪『I Am Here 私たちはここにいる トランスジェンダーもそうでない人も 知ってほしい日常』(2020年)

『誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック[第2版]』(プライドハウス東京、2020年)

デラルド・ウィン・スー(著)、マイクロアグレッション研究会(翻訳)

『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション——人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』(明石書店、2020年)

大日向雅美『女性の一生』(日本評論社、2020年)

総合女性史学会(編)『ジェンダー分析で学ぶ 女性史入門』(岩波書店、2021年)

ブレイディみかこ『女たちのポリティクス 台頭する世界の女性政治家たち』(幻冬舎、2021年)

ダフナ・ジョエル、ルバ・ヴィハンスキ『ジェンダーと脳 性別を超える脳の多様性』(紀伊國屋書店、2021年)

日野佳恵子『女性たちが見ている10年度の消費社会 市場の8割を左右する「女性視点マーケティング」』(同文館出版、2021年)

日本婦人団体連合会(編集)『女性白書2021 コロナ禍とジェンダー平等への課題』(ほるぷ出版、2021年)

ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社、2021年)

ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』(新潮社、2021年)

井上輝子『日本のフェミニズム 150年の人と思想』(有斐閣、2021年)

水無田気流『多様な社会はなぜ難しいか 日本のダイバーシティ進化論』(日本経済新聞出版、2021年)

中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』(集英社、2021年)

辻村みよ子・糠塚康江・谷田川知恵『概説 ジェンダーと人権』(信山社、2021年)

澤田季江『ジェンダー視点で学ぶ女性史』（日本機関紙出版センター、2021年）
浅野富美枝・天童睦子『災害女性学をつくる』（生活思想社、2021年）
心理科学研究会ジェンダー部会編『女性の生きづらさとジェンダー 「片隅」の言葉と向き合う心理学』（有斐閣、2021年）
上野千鶴子・鈴木涼美『往復書簡 限界から始まる』（幻冬舎、2021年）
国立歴史民俗博物館（監修）『性差の日本史』（集英社インターナショナル、2021年）
岡本早織訳『ルース・B・ギンズバーグ名言集』（創元社、2021年）
橋本琴絵『暴走するジェンダーフリー 異論を許さない時代』（ワック株式会社、2021年）
日本婦人団体連合会（編集）『女性白書2022 コロナ禍を超え、ジェンダー平等社会の実現を』（ほるぷ出版、2021年）
日経×woman『早く絶版になってほしい #駄言辞典』（日経BP、2021年）
前田 晃平『パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ！ママの社会進出と家族の幸せのために』（光文社、2021年）
雨宮処凛『「女子」という呪い（集英社文庫）』（集英社、2021年）
ヒューマン・コミュニケーション研究所（編集）『女性の活躍！応援マガジン 季刊オピニオン・プラス2021年秋（vol.35）』
田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版、2021年）
チェ・スンボム『私は男でフェミニストです』（世界思想社、2021年）
内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書（令和4年版）』（勝美印刷、2022年）
佐藤文香『女性兵士という難問—ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学—』（慶應義塾大学出版会、2022年）
村田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーのとびらを開こう』（大和書房、2022年）
新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』（小学館、2022年）
ルース・ベイダー・ギンズバーグ、アマンダ・L・タイラー『ルース・ベイダー・ギンズバーグ アメリカを変えた女性』（2022年、晶文社）
上野千鶴子『最後の講義 完全版 上野千鶴子』（主婦の友社、2022年）
上野千鶴子『フェミニズムがひらいた道』（NHK出版、2022年）
東京都産業労働局雇用就業部労働環境課『2022年版 働く女性と労働法』（2022年）
『性的マイノリティ（LGBTQ+）の自殺対策を自治体で進めて行くために～「自殺総合対策大綱」に基づいて～』（2022年）
東京都生活文化局都民生活部男女平等参画課『男女平等参画を・・・学BOOK』（2022年）
東京都産業労働局『働きながら出産・育児・介護 育児・介護休業制度のポイント』（2022年）
東京ウィメンズプラザ『パパとママが描くみらい手帳 令和4年版』（2022年）
渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>『LGBTQ 基礎知識 みんなが多様な性を生きている。』
「座談会 大学におけるダイバーシティ推進の取り組み」『大学時報』（2022年7月）NO.405 所収
東京都生活文化局都民生活部男女平等参画課『だれもが輝くとうきょうガイドブック～男女平等参画のための施策～』（2022年）
東京都生活文化局都民生活部男女平等参画課『配偶者暴力被害者支援ハンドブック』（2022年）
渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>『一人ひとりが自分の力を生かせる渋谷に。 渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例について』
アーヴィング・L・ジャニス『集団浅慮—政策決定と大失敗の心理学的研究』（新曜社、2022年）
羽生祥子『SDGs、ESG 経営に必須！多様性って何ですか？D&I、ジェンダー平等入門』（日経BP、2022年）
浜田敬子『男性中心企業の終焉（文春新書）』（文藝春秋、2022年）
後藤嘉代『労働組合の「ジェンダー平等」への挑戦』（日本生産性本部 労働情報センター、2022年）
浅倉むつ子『新しい労働世界とジェンダー平等』（かもがわ出版、2022年）

加藤陽子・鴻巣友季子・上間陽子・上野千鶴子『別冊NHK100分de名著 フェミニズム(教養・文化シリーズ)ムック』(NHK出版、2023年)
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン(編集)『おしえてジェンダー!「女の子だから」のない世界へ』(合同出版、2023年)
李美淑・小島慶子・治部 れんげ・白河 桃子『いいね! ボタンを押す前に——ジェンダーから見るネット空間とメディア』(亜紀書房、2023年)
鈴木達也『女性優遇≠ダイバーシティ』(幻冬舎、2023年)
牧野百恵『ジェンダー格差—実証経済学は何を語るか(中公新書)』(中央公論新社、2023年)
伊藤春奈(花束書房)(編集)『エトセトラ<VOL.9(2023SPRING/SUMMER)> 特集 NO MORE 女人禁制!』(エトセトラボックス、2023年)

<論文>

池上清子「女性の健康と権利をめぐる国連と国際社会の動き—性と生殖に関する健康と権利(SRH/R)の分析を中心に」、『ジェンダーと国連(国連研究第16号)』(国際書院、2015年)
上野友也「「女性・平和・安全保障」—国連安保理決議1325(2000)の履行に向けた制度化を中心に」、『ジェンダーと国連(国連研究第16号)』(国際書院、2015年)
近江美保「国連におけるジェンダー主流化と貿易自由化—UNCTADによる試み」、『ジェンダーと国連(国連研究第16号)』(国際書院、2015年)
谷口洋幸「国連と性的指向・性自認—人権理事会SOGI決議の意義」、『ジェンダーと国連(国連研究第16号)』(国際書院、2015年)
中野円佳「エリート女性への支援は女性全体に資するか?—「勝ち組」女性の課題と女性活躍推進の影響」『女性学』第24号(2017年)
清末愛砂「女性学・ジェンダー研究は変容を求められるか—女性の活躍推進法時代を迎えて」『女性学』第24号(2017年)
中澤晶子「『寄せ集め』から見てきたもの」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
杉山貴士「自作からジェンダーへの問題意識を語る」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
はらだ有彩「『日本の「ヤバい」女の子』になった女の子たち、「ヤバくない」ことになっていく女の子たち」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
古内一絵「たとえ理解が出来なくても」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
長谷川まりる「言いたいことも言えないこんな世の中はポイズンなので」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
小川景子・伊藤美幸「リプロダクティブ・ヘルス/ライツと平和」、平井朗、横山正樹、小山英之編『平和学のいま:地球・自分・未来をつなぐ見取図』(法律文化社、2020年)所収。
藤岡美恵子・伊藤美幸・平井朗「ジェンダーと平和—「生命と社会の再生さんをめぐる諸理論の批判的検討」、平井朗、横山正樹、小山英之編『平和学のいま:地球・自分・未来をつなぐ見取図』(法律文化社、2020年)所収。
宮下美砂子「幼年文学にみるジェンダー—育児の描かれ方から考える」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
水間千恵「児童文学とジェンダーとわたし」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
中川素子「絵本に見るセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号
牛山恵「ジェンダーと国語教材」『日本児童文学 特集 ジェンダーと児童文学』2020年7-8月号

これからのジェンダー平等①「性別役割分業意識の変革」の新段階? …江原由美子書齋の窓 2021.11月号 (No.678)

これからのジェンダー平等② 性別カテゴリーの潜在化 …江原 由美子書齋の窓 2022.01月号 (No.679)

これからのジェンダー平等③「性別カテゴリーの潜在化」と「ジェンダー平等」…江原 由美子書齋の窓 2022.3月号 (No.680)

これからのジェンダー平等④なぜ「性別カテゴリーの潜在化」は「ジェンダー平等の実現」を意味しないのか? …江原 由美子書齋の窓 2022.05月号 (No.681)

これからのジェンダー平等⑤「無意識」という問題 …江原 由美子書齋の窓 2022.07月号 (No.682)

これからのジェンダー平等⑥ 社会構造問題としてのジェンダー平等 …江原 由美子書齋の窓 2022.09月号 (No.683)

<新聞記事>

「女性は管理職向かない」「育児中きつい仕事は無理」…、「無意識の偏見」登用阻む (Women & Work) (日本経済新聞、2019年2月4日)

アンコンシャス・バイアス「無意識の偏見」、女性活躍阻む——企業に対策研修「自覚、慎重な判断生む」(Women & Work) (日本経済新聞、2017年11月27日)

「P & G 執行役員広報渉外本部アソシエイト・ディレクター住友聡子氏——無意識の「バイアス」を知る (女性管理職が語る) (日経産業新聞、2020年3月12日)

「男女格差 121 位の現在地は」(朝日新聞、2020年3月8日)

「お母さん食堂」論争の背景」(毎日新聞、2021年2月19日)

「歴史浅い男女平等」(毎日新聞、2021年2月20日夕刊)

「[家事] 夫婦でシェア (下) 話し合っってチーム感を」(讀賣新聞、2020年3月19日東京朝刊)

「机をたたく、相談を拒絶、性的冗談を流布、ハラスメント撲滅へ具体指針、ベル24、離職の防止に。」(日経産業新聞、2020年2月12日)

「パワハラ撲滅へ、会社はどう対策、防止法、6月施行、「トップが率先して」「経営問題と認識を」(日本経済新聞 2020年4月27日)

「家事時間の男女差 2 時間 57 分、前回比縮小も依然大きな開き - 奈良県の 2021 年社会生活基本調査」(奈良新聞、2023年1月31日)

「育休取って夫婦げんか激増なぜ」(毎日新聞、2022年12月16日)

「無月経問題正しく向き合っって」(毎日新聞、2021年9月24日)

「芸術界 いびつジェンダー キャリア形成 不均衡顕著」(毎日新聞、2022年9月3日)

「「嫁さん」「旦那」使われ続けるのは?」(毎日新聞、2022年6月4日)

「論点 フェミニズムの現在地」(毎日新聞、2022年4月29日)

「コロナの痛み 女性に色濃く 連合奈良 男女間の格差是正を 6月「男女平等月間」」(奈良新聞、2022年6月14日)

「#「普通」をほどく 夫婦の呼称 「主従」ひそむ言葉にあらがう」(毎日新聞、2022年6月26日)

「ジェンダー表現 自戒のガイド書 「良妻賢母」も「イクメン」ももう NG」(毎日新聞、2022年4月20日)

「LGBTQ 誇り持って競技を ゲイ公表のフィギュア元五輪代表」(毎日新聞、2022年11月19日)

「女性×テクノロジー フェムテック普及に法の壁 「生理用品は白」/「医薬部外品」から除外も」(毎日新聞、2021年6月23日)

放置許されぬ 学校での性暴力」(毎日新聞、2022年7月15日)

「女性候補 伸びぬ数」(毎日新聞、2022年3月8日)

「ジェンダー、軍隊も意識、女性の徴兵・登録、欧州で拡大、任務多様化で人材確保、男社会、慣習見直し不可欠。」(日本経済新聞、2021年8月10日)

「家庭で活躍しない日本の男性 ジェンダーの現在地～本田由紀教授と考える（上）」（毎日新聞、2022年3月18日）
「マイクロ アグレッション 「女性なのにすごい」それは”小さなけなし” 性別、人種で相手を下に」（奈良新聞、2022年6月1日）
「等身大の「性教育」インスタで発信 目指すはジェンダー平等」（毎日新聞、2022年7月5日）
「女性管理職 奈良、全国2位13.1% 近畿9%、過去最高」（奈良新聞、2022年11月23日）
「男性の「とるだけ育休」防ぐには」（毎日新聞、2023年1月3日）
「「仕事より育児」の時期あっても」（毎日新聞、2023年1月7日）

<インターネット>

男女不平等としてどんな問題がある？ジェンダーギャップ指数とは
<https://gooddo.jp/magazine/inequality/11386/>
IDEAS FOR GOOD（最終閲覧日2020年3月）
<https://ideasforgood.jp/issue/genderinequality/>
「特集 世界でもっとも男女平等な国（1）父親の育休取得率7割！」
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/158/>
「11年連続！アイスランドがジェンダーギャップ指数 世界1位になるまで」
<https://sourire-heart.com/category/wmn-clm/>
「大きなジェンダー・ギャップの現実 なぜ女性の地位が世界最低レベルなのに、日本男性の幸福度は異常なほど低いのか」（最終閲覧日2020年3月）
<https://president.jp/articles/-/35456>
富山県総合政策局少子化対策・県民活躍課『結婚したら始めよう！TOYAMA家事シェアスタートブック』（PDF）
<https://www.pref.toyama.jp/documents/9563/01384342.pdf>
富山県「TOYAMA家事シェアスタートブック」を作成しました！
<https://www.pref.toyama.jp/101701/kurashi/seikatsu/seikatsueisei/kj00021856.html>
NHK「政治マガジン」（最終閲覧2022年1月17日）
<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/lastweek/31604.html>
奈良県女性活躍推進課 HP
<https://www3.pref.nara.jp/hodo/item/67477.htm>
一般社団法人インテグリティ公式 HP
<https://www.integrity-sd.org/cont16/97.html>
履歴書から性別欄、顔写真欄を削除へ。多様性に配慮
<https://www.tbsradio.jp/archives/?id=p-573787>
履歴書に顔写真は必要か？世界の履歴書は？斜めの顔写真が常識の国もあった！
<https://tonton52.com/rirekisho/amp>
朝日新聞「ウーマン川柳」続々投稿 本音や違和感、共有したい（2021年3月8日）
<https://www.asahi.com/articles/ASP3575F8P33UTFL00T.html>
幻冬舎 GOLD ONLINE お茶くみ、掃除…よくある職場の慣例はハラスメントの可能性大
<https://gentosha-go.com/articles/-/31013>
LIMO [リーモ] | くらしとお金の経済メディア「男女の賃金格差はどれくらいあるのか。年齢や雇用形態、産業別にチェック」
<https://limo.media/articles/-/27148>
ユニセフ HP 児童婚
https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_act04_04.html
アフリカで強制結婚させられる子どもたちが多い理由、解決のために必要な支援とは

https://gooddo.jp/magazine/peace-justice/human_trafficking/africa_humantrafficking/2761/
子育て支援策 新報告書
ユニセフ HP 先進国の育休、保育政策等をランキング 日本は育休 1 位、保育の質や料金では中位
<https://www.unicef.or.jp/news/2021/0125.html>
総務省 HP 「女性消防吏員の活躍推進」
https://www.fdma.go.jp/relocation/josei_shokuin/josei-shokuin001.html
女子力が高い人の特徴 10 個！女子力をアップする方法 5 つを紹介
<https://machicon.jp/ivory/column/41461>
15 歳のニュース 女子の制服、パンツ OK 都道府県立高校で 44. 4%
<https://mainichi.jp/maisho15/articles/20211002/dbg/048/040/010000c>
《朝日新聞デジタル》(今さら聞けない世界) 男女平等 6 位のナミビア 120 位の日本が学ぶべきこと (2021 年 04 月 25 日)
<https://www.asahi.com/articles/ASP4Q6G4WP4NUHBI01F.html>
内閣府男女共同参画局「共同参画」2021 年 5 月号
https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/202105_05.html
朝日新聞デジタル (いちからわかる!) きょう 11 月 19 日は「国際男性デー」なの? (2020 年 11 月 19 日)
<https://www.asahi.com/articles/DA3S14700612.html>
「憲法 変えるのではなく世界に広げて 24 条草案者の長女ニコルさんに聞く」東京新聞 2019 年 8 月 29 日
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/15231>
LGBT の割合がバラつく理由【13 人に 1 人? 100 人に 1 人?】
<https://jobrainbow.jp/magazine/lgbt-percentage>
厚生労働省 平成 28 年度 人口動態統計特殊報告「婚姻に関する統計」の概況です!
女性の政治進出、日本は先進国最低 駐日大使の解決策
<https://style.nikkei.com/article/DGXZQOFK250FH0V21C21A0000000/>
「共同参画」2021 年 5 月号 世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数 2021」を公表 内閣府男女共同参画局総務課
https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/202105_05.html
九州大学男女共同参画推進室 2018-09-17 「九州大学配偶者帯同雇用制度」について
<https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/notice/view.php?cId=2600>
朝日新聞デジタル「研究者夫婦、一緒に雇用します 九大が国内初」2017 年 7 月 27 日
<https://www.asahi.com/articles/ASK7W34B5K7WUBQU004.html>
男性に「ゲタをはかせていた」無意識の偏見の正体
<https://forbesjapan.com/articles/detail/17905>
妻と嫁と奥さんと女房と家内とかみさんの違い
<https://all-guide.com/cg00445/>
製品価格の男女差「ピンク税」は、性差別ではなく経済学
<https://forbesjapan.com/articles/detail/12809/1/1/1>
女性用”が高くなるカラクリ、ピンク税を排除「指毛もわき毛も剃りたい」女子のためのカミソリブランドが登場
<https://heapsmag.com/no-pinktax-shaving-body-care-brand-Billie-for-women>
JSPS 男女共同参画推進シンポジウム『研究とライフイベントの両立へのヒントがここに!』
<https://cheers.jsps.go.jp/event/>
独立行政法人国際協力機構「“女性の視点に立った防災”が必要: 藤原しおり (元ブルゾンちえみ) さんたち

と考える」

https://www.jica.go.jp/topics/2021/20210408_01.html

男女共同参画局 災害対応力を強化する女性の視点

<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html>

日本が「配偶者控除」をなくせない本当の理由

<https://president.jp/articles/-/30470>

配偶者控除、働く女性「廃止を」8割 日経ウーマノミクス・プロジェクト会員調査

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO08537550Z11C16A0TY5000/>

女性候補、有権者から「デートして」・宴席で有力者に体触られ…「票ハラ」に悩む 読賣新聞 2021/10/17

<https://www.yomiuri.co.jp/election/shugiin/20211017-OYT1T50033/>

お尻にスツと手 つきまといも 「票ハラ」の対処法は 朝日新聞デジタル 2021年7月27日

<https://www.asahi.com/articles/ASP7W5W1HP7RUTFK00Q.html>

朝日新聞社が作成した『2030 SDGs で変える 2021 年度版』

<https://www.nikkeibp.co.jp/atclpubmkt/book/21/282890/>

朝日新聞 2021年6月24日 工学系女子、社会変える 女子大初の工学部 奈良女

<https://www.asahi.com/articles/ASP6R6X9MP5LPOMB00K.html>

五輪「性的意図の映像」なくす… IOC も方針 ナゼ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9270e9c998c43a74ec95deae90c878d066f7ff6>

親の影響ではなかった！？「家事ができない夫」はなぜ生まれる？——共働き夫婦 家事育児の実態～夫のホンネ、妻のホンネ～ vol.03

https://next.rikunabi.com/journal/20191209_d02/

「生理用品の無料配布、実施に地域差 最低は鹿児島島の2%」朝日新聞デジタル 2021年8月4日

<https://www.asahi.com/articles/ASP835RH9P83UTFK010.html>

(帝塚山大学が所在している奈良市は 2021年6月に無料配布を実施した)。

都立高入試、女子に不利 合格点、最大243点差 毎日新聞 2021/5/27

<https://mainichi.jp/articles/20210527/ddm/001/100/138000c>

現在、女性を一律に不利に扱うなど、不正入試が発覚した東京医科大を受験した女性28人が、「不公正、不公平な入試を受験させられた」として同大に計約1億5200万円の賠償を求めた訴訟が起こされている。

朝日新聞 2020年09月26日夕刊ミスコン、あり方考える 「多様性に反する」批判受け

法政大学 HP 「ミス / ミスターコンテスト」について

<https://www.hosei.ac.jp/NEWS/gaiyo/191129/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>

都合の良い「多様性と調和」東京オリパラが残した負のレガシーを忘れない

<https://news.yahoo.co.jp/byline/matsuokasoshi/20210906-00256885>

タリバン戦闘員「食事がまずい」、女性に火をつけて殺害…女学校の閉鎖相次ぐ 読賣新聞 2021/08/23

<https://www.yomiuri.co.jp/world/20210823-OYT1T50038/>

ヒューマンライツウォッチ HP アフガニスタン：女性を守れない司法制度 タリバン支配拡大で、過去の司法上の改革も危機に 2021/8/4

<https://www.hrw.org/ja/news/2021/08/05/379390>

ナショナル ジオグラフィック ニュース アフガン新法、女性にとって致命的 2014.02.10

<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/8879/>

男女共同参画局女性活躍推進法「見える化」サイト

https://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/horitsu_kihon/index.html

「女性活躍推進支持せず」「フェミニスト嫌い」若年男性の4割 電通調査

<https://www.advertimes.com/20211116/article368638/>

もっとも、電通が行った2021年に行った「男らしさに関する意識調査」によれば「女性活躍推進支持せず」「フェミニスト嫌い」という若年男性が4割を数えた。

男性の5人に1人がメイクをしている！？メンズメイクに対する女性の意見を調査

株式会社ネクストレベル 2021年9月16日

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000104.000032757.html>

内閣府男女共同参画局「パープル・ライトアップ」を実施してみませんか？ー実施団体募集ー

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/purple/index.html

フェムテックの次はコレ！新市場の注目キーワード「ジェンダード・イノベーション」DIME 2022.09.28

<https://dime.jp/genre/1471906/>

パドレス ダルビッシュ 子ども生まれ産休に先発は27日に順延

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220824/k10013784991000.html>

内閣府男女共同参画局「“おとう飯”始めよう」キャンペーン

<https://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html>

「PTA活動」にお父さんの姿が少ない理由とは？282人の父母に聞いた

<https://kufura.jp/family/couple/201839>

総務省消防庁

https://www.fdma.go.jp/relocation/josei_shokuin/

総務省消防庁女性活躍

https://www.fdma.go.jp/relocation/josei_shokuin/josei-shokuin001.html

「「相手任せはNG」大切な同意 清泉女子大生が挑む等身大の性教育」（毎日新聞、2022年6月12日）

<https://mainichi.jp/articles/20220611/k00/00m/040/016000c>

ホリエモン、女性の健康課題を語る - 「経営者こそフェムテックを学ぶべき」その理由は？

<https://news.mynavi.jp/article/20221101-2499743/>

母子手帳、親子つなぎ80年 時代で変化、ジェンダー配慮ー父の育児も後押し

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2022031900423&g=eco>

母子手帳は「親子手帳」じゃだめ？ 父親たちの問題提起

<https://www.asahi.com/articles/ASP7D5FLXP7DULEI002.html>

ガラスの天井の意味は。壊れたはしごとは違う？女性やマイノリティのキャリアアップの障壁

<https://www.profuture.co.jp/mk/recruit/strategy/40122#:~:text=2022%E5%B9%B4%E6%9C%88%E3%81%AB,%E3%81%AB%E9%A0%86%E4%BD%8D%E3%81%8C%E6%B1%BA%E3%82%81%E3%82%89%E3%82%8C%E3%82%8B%E3%80%82>

<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/kenko/periodpoverty/pdf/2-2.pdf>

オイテル HP

<https://www.oitr.jp/>

ジェンダード・イノベーションと産学連携

2022/12/15

<https://news.goo.ne.jp/article/sangakukan/nation/sangakukan-20221215133134052.html>

女子高校生を対象にしたジェンダーに関する調査報告書が公開

EdTechZine 編集部 | 著 |

d & i とは？推進するメリットから取り組み事例までご紹介

<https://schoo.jp/biz/column/1421#:~:text=d%26i%E3%81%AEd%E3%81%AF%E3%83%80%E3%82%A4%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%86%E3%82%A3,%E3%81%84%E3%82%8B%E7%8A%B6%E6%85%8B%E3%82%92%E8%A1%A8%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

『誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック [第2版]』（プライドハウス東京、2020年）

「ジェンダー平等の達成」には286年かかる？

<https://madamefigaro.jp/society-business/230103-gender.html>

2022年の終わりには一日1.90ドル以下という極貧状況で暮らす女性や女子は3.83億人いると推定されるのに対し、男性や男子は3.68億人。

ポーラが「令和4年度東京都女性活躍推進大賞」受賞

社内外への女性活躍推進活動・次世代へのキャリア教育が評価され産業分野にて「大賞」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000409.000036737.html>

家事時間の男女差2時間57分、前回比縮小も依然大きな開き - 奈良県の2021年社会生活基本調査(奈良新聞、2023年1月31日)

<https://www.nara-np.co.jp/news/20230131212041.html>

男女共同参画局 GGI ジェンダー・ギャップ指数

https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html

前田 晃平『パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ！ママの社会進出と家族の幸せのために』(光文社、2021年) 男性育休・現地は？ 家事育児、短時間 男性の「とるだけ育休」防ぐ“七つの法則”(毎日新聞、2022年11月15日)

<https://mainichi.jp/articles/20221114/k00/00m/040/174000c>

K-POPアイドルの影響でコスメが変化！だれでも使いやすいコスメとは？

特集：Life ESSEnce

https://esse-online.jp/articles/-/20081?cx_clicks_art_md=2_img

ジェンダー平等を132年待つわけにはいかない

<https://www.jiji.com/jc/article?k=20220831005230&g=bw>

シングルファーザー事例集『みんなどうしてる？川崎市に暮らすひとり親男性に聞きました』

<https://www.scrum21.or.jp/issue/singlefather>

「マイクロ アグレッション 「女性なのにすごい」それは”小さなけなし” 性別、人種で相手を下に」(奈良新聞、2022年6月1日)

マイクロアグレッションって？ 悪気ない差別的言動 「心に刺さる」とげ、気づいて」原さん高知市で講演 高知新聞社 2022.09.10

<https://www.kochinews.co.jp/article/detail/592403>

「納豆食べられる？」と尋ねる前に 日常に潜む無意識の攻撃

毎日新聞 2022/5/14

<https://mainichi.jp/articles/20220512/k00/00m/040/095000c>

無月経問題、正しく向き合って 日本体育大教授 運動生理学 須永美歌子さん(毎日新聞、2021年9月24日)

<https://mainichi.jp/articles/20210924/ddm/010/040/025000c>

女性アスリートの三主徴

https://www.jpnsport.go.jp/jiss/portals/0/column/woman/seichoki_handobook_5.pdf

【ケンブリッジ英英辞典】「女性」と「男性」の定義をアップデート。「性自認の概念」を反映させるらしい 2022/12/25

<https://tabi-labo.com/305401/wt-cambridge-dictionary-includes-transgender>

声をつないで 国際女性デー 2022 気候変動対策に女性の視点を 「環境・持続社会」研究センター・遠藤理紗事務局次長に聞く (毎日新聞、2022年3月8日)

<https://mainichi.jp/articles/20220308/ddm/013/040/016000c>

「とるだけ育休」男性の3人に1人は家事育児時間が2時間以下…では、父親は何したらいいの？

プライムオンライン編集部

<https://www.fnn.jp/articles/-/24290>

芸術界ジェンダー格差 美大生7割女性なのに 教授は8割男性 毎日新聞 2022/8/29

<https://mainichi.jp/articles/20220829/ddm/041/040/118000c>

2023.01.31 奈良新聞 家事時間の男女差 2 時間 57 分、前回比縮小も依然大きな開き - 奈良県の 2021 年社会生活基本調査
<https://www.nara-np.co.jp/news/20230131212041.html>

「なぜ女子はスカート？」伝統のセーラー服を変えた生徒の一言（毎日新聞、2021 年 4 月 28 日）
<https://mainichi.jp/articles/20210427/k00/00m/040/105000c>

カタール・ワールドカップ、なぜ批判されているのか？懸念される人権問題を解説
https://www.huffingtonpost.jp/entry/qatar-2022_jp_63731885e4b0290136455882

令和 3 年度司法統計
<https://www.courts.go.jp/app/files/toukei/597/012597.pdf>

"内閣府男女共同参画局ホーム > 主な政策 > 女性の活躍促進 > 女性の活躍促進 > 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」
https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders/index.html

※内閣府男女共同参画局ホームが発行している広報誌「共同参画」は、インターネットで閲覧・ダウンロードが可能です。
<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/>

呪縛から解放へ第一歩に 女性の生き方、宇都宮で昭和女子大総長・坂東真理子さんが提言 「無自覚」の偏見、自覚を
<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/798732?top>

「Xジェンダー」当事者 浜松の久米さん団体設立 性的少数者の支援始動、専門家に橋渡し 2023.4.28 あなたの静岡新聞
<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1232012.html>

アイスランドの女性による「男女平等を訴えるストライキ」に、同国の首相が参加
<https://tabi-labo.com/308080/wt-iceland-prime-minister-strike>

朝日新聞デジタル記事 2023 年 11 月 22 日
婚姻届の記入例、「夫の姓選択」が 9 割 ジェンダー平等目指す団体、175 自治体調査
<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15798597.html>

トヨタ女性管理職「3.4%」ホンダは「2.4%」ごりごり“男社会”な自動車メーカー、男女平等はいつ達成するのか
<https://news.yahoo.co.jp/articles/aeed97c8b575de85abe732e6b9a5a0f8729a6c13>

広島県 HP【受賞作品決定！】ちいともやもや ジェンダー川柳コンテスト
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/42/gendersenryu.html>

「男性も真珠」光る個性 化粧品やネイルも人気 女性向け、固定観念薄れる
日本経済新聞 2023 年 7 月 22 日
<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO72972270S3A720C2MM0000/>

スペイン“上場企業の取締役 4 割以上を女性に”義務づけ
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230308/k10014001571000.html>

女性のエンパワーメント原則（WEPs）
https://www.gender.go.jp/international/int_un_kaigi/int_weps/index.html

共同通信社 都道府県版ジェンダー・ギャップ指数
<https://digital.kyodonews.jp/gender2023/>

ELEMINIST HP ジェンダードイノベーションとは 意味や歴史、身近な事例を解説
<https://elemminist.com/article/3017>

【教育×ジェンダー】学校で男女混合名簿を使うメリットとは？
<https://teachforjapan.org/journal/12888/>

< TV 番組 >

NHK「RBG 最強の 85 才 前編」(2018 年 アメリカ)【2021 年 1 月 5 日(火) 放送】[BS1] 後 11:00

NHK「RBG 最強の 85 才 後編」RBG (2018 年 アメリカ)【2021 年 1 月 6 日(水) 放送】[BS1] 後 11:00

NHK「クローズアップ現代+」「女性の体の新常識 フェムテックで社会が変わる」【2020 年 11 月 24 日(火) 放送】

NHK「クローズアップ現代+」「女性が能力を発揮できる職場とは？」【2020 年 11 月 18 日(水) 放送】

※「クローズアップ現代+」は、インターネットで「これまでの放送」を閲覧し、番組内容について学ぶことができる。

女性の権利に関する年表（1945 年以降）

日本の出来事		世界の出来事
女性参政権確立	1945	国連憲章採択、国際連合設立
日本国憲法、第 1 回総選挙（初の女性参政権行使）、女性議員 39 名誕生	1946	国連：女性の地位委員会設置
労働省発足、婦人少年局設置、民法改正（「家」制度廃止）	1947	
優生保護法による中絶の合法化	1948	国連：世界人権宣言
ILO 加盟	1951	ILO: 同一価値の労働についての男女労働者に対する同一報酬に関する条約 (100 号)
	1952	国連：女性の政治的権利に関する条約
売春防止法制定・公布	1956	
初の女性週刊誌『週刊女性』創刊	1957	国連：既婚女性の国籍に関する条約
	1958	ILO：雇用及び職業についての差別待遇に関する条約 (111 号)
国連加盟、高等学校で女子のみ家庭科必修導入	1960	ユネスコ：教育における差別禁止に関する条約
中学新指導要領、男子は技術、女子は家庭科の別修に	1962	国連：婚姻の合意、最低年齢、婚姻の登録に関する条約
		アメリカ：公民権法
	1963	米で B. フリーダン『女らしさの神話』刊行、女性解放運動の端緒
	1965	ILO: 家庭責任をもつ女性の雇用に関する勧告 (123 号)
結婚退職制無効判決（東京地裁）	1966	国連：経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約（社会権規約）
		国連：市民的・政治的権利に関する国際規約（自由権規約）
	1967	国連：女性差別撤廃宣言
女子の高校進学率 79.5% ではじめて男子を上回る	1969	
東急機関工業地位保全仮処分申請事件（女子若年定年制）の判決		
婦人問題企画推進本部	1975	国連：メキシコ会議、「世界行動計画」、国際婦人年（目標：平等、発展、平和）、国連が 3 月 8 日を「国際女性の日」として記念を開始、女性労働者の機会及び待遇の均等に関する宣言
日本女性学会発足		
戸籍法改正	1976	「国連女性の 10 年—平等・開発・平和」を宣言
「国内行動計画」	1977	
国際女性学会設立（2003 年に国際ジェンダー学会に名称変更）		
	1978	ノルウェー：男女平等法

日本の出来事		世界の出来事
日本女性学会設立	1979	国連: 女性差別撤廃条約採択
		マーガレット・サッチャー、女性初の英首相就任
女性差別撤廃条約署名	1980	第2回世界女性会議(コペンハーゲン会議)(女性差別撤廃条約の署名式): 「国連女性の10年後半期行動計画」
「国内行動計画後期重点目標」日産自動車事件最高裁判決	1981	ILO: 家族責任をもつ男女労働者に関する条約(156号)
大卒女子の就職難 上場企業の8割が採用ゼロ	1982	
国籍法の改正施行(父母両血統主義の採用、配偶者の帰化条件の男女同一化)	1985	第3回世界女性会議(ナイロビ会議): 「西暦2000年に向けての女性の地位向上のためのナイロビ将来戦略」
男女雇用機会均等法制定・労働基準法改正		
女性差別撤除条約批准		
年金法改正(妻の年金権の確立)		
「西暦2000年に向けての新国内行動計画」	1987	
女性差別撤廃条約の第1回政府報告書を提出		
配偶者特別控除の導入	1988	
学習指導要領改定(家庭科を男女共修化)	1989	国連: 「世界の女性1970年~1990年: その実態と統計」
女子の大学進学率が36.8%に上り男子を初めて上回る。		
「セクシャル・ハラスメント」が流行語になる。		
日本初のセクシュアル・ハラスメント裁判(福岡セクハラ事件)		
出生率史上最低で「1.57シヨツク」。少子高齢化社会の問題化	1990	
「新国内行動計画」(第1次改定)	1991	
法制審議会民法部会身分法小委員会民法改正の検討開始		
育児休業法制定、92年施行		
女性差別撤廃条約の第2回政府報告書を提出	1992	女性差別撤廃委員会: 「女性に対する暴力(一般勧告19)」
パート労働法	1993	国連世界人権会議、「ウィーン宣言」
土井たか子、女性初の衆議院議長就任		国連: 「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」
労働省「セクハラ」を初めて定義		世界人権会議: 「女性の権利は人権(Women's Right is Human Right)」という強力なキャンペーン展開
女性差別撤廃条約の第3回政府報告書を提出		
婦人企画推進本部改組、男女共同参画推進本部を設置	1994	ILO: パートタイム労働に関する条約(175号)
総理府:(旧)男女共同参画審議会、男女共同参画室		カイロ人口開発会議
法制審議会身分法部会: 「婚姻制度等に関する民法改正要綱試案」		第1回「世界女性スポーツ会議」(イギリス・ブライトン)開催、スポーツにおけるあらゆる分野での女性の参加を推進するブライトン宣言を採択
日弁連「女性の権利110番」夫婦間暴力を取り上げる		

日本の出来事		世界の出来事
金沢地裁、判決文に「セクシュアル・ハラスメント」を初めて使った判決を出す		
ILO156 号条約批准	1995	世界社会保障会議
育児休業法改正（介護休業制度法制化）、育児・介護休業法制定		年第 4 回世界女性会議（北京会議）：「北京宣言及び行動綱領」採択
沖縄少女強姦事件、抗議行動		
法制審議会身分法部会：「民法の一部を改正する法律案要綱」	1996	ディカ・クマラスワミ「ドメスティック・バイオレンスに関する報告」
総理府：「男女共同参画ビジョン—21 世紀の新たな価値の創造」		
旧経済企画庁：「無償労働に関する研究会」		
総理府：「男女共同参画 2000 年プラン」		
優生保護法を母体保護法に改正（優生関係条項削除）		
女子の大学進学率が 24.6% に達し初めて短大進学率を上回る		
男女雇用機会均等法改正（女性に対する差別の禁止等）	1997	
総理府：男女共同参画審議会（男女共同参画審議会設置法）		
日本ジェンダー学会設立	1997	
「男女共同参画社会基本法について—男女共同参画社会を形成するための基礎的条件づくり」	1998	
1998 女性差別撤廃条約の第 4 回政府報告書を提出		
NPO(特定非営利活動促進)法		
女子の大学・短大進学率 49.4% で男子の 47.1% を上回る		
男女共同参画社会基本法の公布・施行	1999	国連：女性差別撤廃条約の選択議定書（個人からの通報認める）
ピルの使用認可		フランス：男女平等アクセス法
		ラディカ・クマラスワミ「女性に対する暴力：家庭内における女性に対する暴力—その原因と結果」
女性の審議会委員の数を 20% まで高める目標達成	2000	韓国：「政党法」改正
旧厚生省「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療のあり方についての報告書」		女性 2000 年ニューヨーク会議「成果文書」
「男女共同参画基本計画」閣議決定		ILO: 改定母性保護条約（出産休暇 14 週以上）
ストーカー行為等の規制等に関する法律		国連特別総会「女性 2000 年会議：21 世紀に向けての男女平等・開発・平和」（ニューヨーク、6 月）
中央省庁再編、男女共同参画会議・男女共同参画局（内閣府）設置（1 月）	2001	韓国：女性省新設
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律		「フランス：パリテ法のもと市町村議会選挙で女性議員比率倍増
「育児休業法」改正（対象となる子の年齢の引き上げ等）		

日本の出来事		世界の出来事
人事院：「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する指針」		
男女共同参画会議：「仕事と子育ての両立支援策に関する専門調査会」		
女性差別撤廃条約の第 5 回政府報告書を提出	2002	
男女共同参画社会の将来像検討会報告書	2003	国連女子差別撤廃委員会日本政府レポートに対する勧告
ジェンダー法学会創立		
育児・介護休業法改正	2004	暫定的特別措置に関する一般的勧告 25 号
男女共同参画推進本部決定「女性国家公務員の採用、登用の拡大等について」決定		
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の改正（暴力の定義の拡大等）（6 月公布／12 月施行）及び同法に基づく基本方針の策定（12 月）		
「男女共同参画基本計画（第 2 次）」閣議決定（12 月）	2005	第 49 回国連婦人の地位委員会／「北京 + 10」閣僚級会合（ニューヨーク、2～3 月）
「男女雇用機会均等法」の改正（性差別禁止の範囲の拡大等）（6 月公布／2007 年 4 月施行）	2006	韓国で韓明淑が初の女性首相に就任
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」改正（保護命令制度の拡充等）（7 月公布／2008 年 1 月施行）	2007	
改正男女雇用機会均等法施行。柳沢厚労相の「女性は産む機械」発言問題化		
「パートタイム労働法」改正（パートタイム労働者の雇用環境の整備）（6 月公布／2008 年 4 月施行）		
「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」策定（12 月）		
女性差別撤廃条約の第 6 回政府報告書を提出	2008	
最高裁 兼松賃金訴訟で男女格差は違法との判決	2009	
育児・介護休業法改正（短時間勤務制度導入等）		
改正育児・介護休業法施行、男性の育休取得を後押し	2010	第 54 回国連婦人の地位委員会 / 「北京 +15」記念会合
		UN Women 設立
「第 3 次男女共同参画基本計画」閣議決定		国連グローバル・コンパクトと UNIFEM（現 UN Women）が共同で作成した女性の活躍推進に積極的に取り組むための行動原則 WEPs（女性のエンパワーメント原則）を策定
	2011	エレン・ジョンソン・サーリーフ（リベリア）、レイマ・ボウイ（リベリア）、タワックル・カルマン（イエメン）がノーベル平和賞を受賞。平和構築活動における女性の安全かつ全面的参加を求めて非暴力の活動を展開
子ども・子育て支援法成立	2012	第 56 回国連婦人の地位委員会「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント決議案採択
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の改正（7 月公布）及び同法に基づく基本方針の策定（12 月公布）	2013	

日本の出来事		世界の出来事
内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点からの防災・復興の取り組み指針」	2013	
女性差別撤廃条約の第7回および第8回政府報告書を提出	2014	女子教育の重要性を訴えたマララ・ユスフザイ（パキスタン）さんがノーベル平和賞を受賞。
		第58回国連女性の地位委員会「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント」採択
「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の成立	2015	SDGs（持続可能な開発目標）を採択
「第4次男女共同参画基本計画」閣議決定（12月）		
最高裁、女性のみ再婚禁止期間を違憲と判断		
最高裁、夫婦同氏を定める民法規定を合憲と判断		
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）完全施行	2016	
「女性活躍加速のための重点方針2016」策定		
「女性の活躍推進のための開発戦略」策定		
G7伊勢・志摩サミット「女性の能力開花のためのG7行動指針」及び「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ（WINDS）に合意		
女子差別撤廃条約実施状況第7回及び第8回報告書審議、最終見解		
育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法等の改正		
「国際女性会議 WAW!」（WAW!2016）開催		
一般勧告第35号（19号改訂）女性に対するジェンダーに基づく暴力	2017	
改正刑法施行（性犯罪の厳罰化、強姦罪の非親告罪化）		
「セクシュアルハラスメント対策の強化について～メディア・行政間での事案発生をうけての緊急対策～」の策定	2018	ナーディーヤ・ムラード（イラク）氏がノーベル平和賞を受賞。戦時下性暴力を終結させるための活動に対して
「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」公布、施行		
国連女性差別撤廃委員会、日本政府第7回および第8回報告審査に対する見解		
GGI（ジェンダーギャップ指数）2020で日本は世界153カ国中121位（政治分野144位）	2020	2018・2019年G7ジェンダー平等評議会、「コロナ危機におけるジェンダー平等と女性の権利に関する声明」
内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン		
「第5次男女共同参画基本計画」閣議決定		
女性活躍推進法の改正、女性の活躍に関する情報公表の強化（常時雇用する労働者が301人以上の事業主が対象）、「プラチナえるぼし」認定が創設		

GGI（ジェンダーギャップ指数）2021 で日本は世界 156 カ国中 120 位（政治分野 146 位）	2021	
女性活躍推進法の改正、女性の活躍に関する情報公表の強化（常時雇用する労働者が 101 人以上の事業主が対象）、一般事業主行動計画の策定義務、情報公開義務の対象拡大（常時雇用する労働者が 301 人以上から 101 人以上の事業主に拡大）		
夫婦別姓を認めない民法の規定について、最高裁判所大法廷は憲法に違反しないとする判断		
女性活躍推進法の改正・・・女性の活躍に関する情報公表の項目「男女の賃金の差異」が必須化 ※常時雇用する労働者が 301 人以上の事業主が対象	2022	
女性支援新法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）が施行予定（4 月）	2024	

<編集後記>

SDGs（持続可能な開発目標）は、その前身である MDGs（ミレニアム開発目標）とは比べ物にならないほど注目されています。こうして成果物を完成させることによって半期のゼミを終了できたことは、PBL（問題解決型学習）および官学連携の実践を行えた充実感があります。また同時に、本成果物はゼミ生たちとの学びの記録としての教員にとってのティーチング・ポートフォリオとなり、また、ゼミ学生にとっては思い出深いラーニング・ポートフォリオとなったのではないかと確信しています。

なお、「ジェンダーギャップを考えるカルタ」は「まずは知ることから」をコンセプトに、「どうぞご自由にお使いくださいませ」と無料閲覧&ダウンロードできるようにはなっていますが、もしお使いになられた場合には下記メールアドレスまでご一報いただけますと幸いです。今後の参考やカルタ制作の際の励みとさせていただきます。

最期になりましたが、本成果物の作成に際しては、帝塚山大学図書館をはじめ、奈良県立図書情報館、生駒市図書館などからジェンダー問題に関する多くの資料をお借りました。この場をお借りして関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

2024年3月8日 国際女性デーの日に

冊子名：『ジェンダーギャップの解消を目指して SDGs（持続可能な開発目標）に関する探究の記録』（非売品）

発行：帝塚山大学法学部 専門基礎演習 B（2年生 12名）

& 指導教員 末吉 洋文

お問い合わせ先： e-mail：sueyoshi@tezukayama-u.ac.jp

2024年3月作成

© 帝塚山大学法学部専門基礎演習 B ゼミ（指導教員：末吉洋文）